



第5回
子ども市議会



平成19年12月26日
開会

会

録

議



別府市議会議長

山本一成

子ども市議会を終えて

第5回「べっぷ子ども市議会」が、子どもたちの別府への熱い思いを感じ開催されました。開催に当たりまして、ご協力をいただきました各小中学校の先生方、子ども会育成会連合会の皆さま、PTA連合会の皆さま、そして保護者の皆さまに心より感謝申し上げます。

今回の子ども市議会を通じて、子ども議員は大人とは違う視点や考えで意見をよくまとめ、良い質問や提言をしていただきました。その生き生きと凛々しい姿に接し、別府の将来への期待が膨らむとともに、この純真な子どもたちの住む別府が、希望のある愛せるまちにしていかなければならないと心新たにしたところでもあります。

今後とも、一人でも多くの子どもたちが別府というまちに興味を持ち、まちづくりを考え、行動するように皆さまのご協力をお願いいたします。



別府市長

浜田博

将来の別府を思う子ども市議会

第5回を迎えました小学生と中学生の議員による「べっぷ子ども市議会」は、次世代を担う子どもたちの別府に対するすばい観察力により、多くの成果とともに、大変素晴らしい子ども市議会となりました。

別府がもつ財産を再認識し、町を大切にすることを提唱した子ども宣言「私たちが未来を創るまち 別府」は市民全員で取り組まなければならない大切なものであると考えております。

私たちは次世代につながる夢と希望に満ち溢れた「ONSENツーリズム」のまちづくりを一層推進していかなければなりません。

「べっぷ子ども市議会」の開催にご尽力いただきました先生方、保護者の方々、関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、「べっぷ子ども市議会」のますますの発展をご期待いたします。

議長



西岡祐里議員（北部中2年）

副議長



奥迫胡桃議員（浜脇中2年）

一般質問



田原寛己議員（東山小6年）



川原睦貴議員（大平山小6年）



三角雅也議員（北部中2年）



石田智基議員（浜脇中2年）



大友遥菜議員（緑丘小6年）



中村彩子議員（山の手中1年）



高橋剛太議員（上人小6年）



首藤将悟議員（中部中2年）



池田孝明議員（朝日中1年）



松本成葉議員（青山中1年）



油布孝吉議員（鶴見台中2年）



田原健太郎議員（東山中2年）



高木渉美議員（鶴見小6年）



富松拓朗議員（春木川小6年）



笠置昂也議員（南小6年）



中島康貴議員（青山小6年）

提 言



山下真奈議員（北小6年）



吉野 葵議員（鶴見台中2年）



亀川美津希議員（中部中3年）



垣迫 萌議員 (亀川小6年)



近藤千樹議員 (朝日小6年)



小畑太哉議員 (南立石小6年)



首藤弘樹議員 (境川小6年)



田口真希議員 (石垣小6年)



塩崎芳野議員 (野口小6年)



佐藤千聡議員 (青山中2年)



田内志於梨議員 (西小6年)



都築慶子議員 (朝日中2年)

子ども宣言



小野恭央議員 (東山中2年)

謝 辞



柁木寿々美議員 (山の手中2年)

第5回「べっぷ子ども市議会」会議録 目次

・ 会期日程表	1
・ 子ども議員提出議案議決結果	1
・ 一般質問者一覧表	1
・ 提言者一覧表	3
第1号（12月26日・水曜日）	
・ 出席議員	5
・ 欠席議員	6
・ 説明のための出席者	6
・ その他出席者	6
・ 議会事務局出席者	7
・ 議事日程表（第1号）	7
・ 本日の会議に付した事件	7
（開 会）	9
・ 議席の指定	9
・ 会議録署名議員の指名	10
・ 会期の決定	11
・ 一般質問	11
質問者・田原寛己議員	11
答弁者・阿南俊晴 観光経済部長	11
答弁者・浜田博 市長	12
質問者・川原睦貴議員	12
答弁者・阿南俊晴 観光経済部長	13
答弁者・浜田博 市長	13
質問者・三角雅也議員	15

答弁者・龜山	勇	企画部長	1 5
答弁者・浜田	博	市長	1 6
質問者・石田	智基	議員	1 7
答弁者・郷司	義明	教育長	1 7
答弁者・浜田	博	市長	1 8
質問者・大友	遥菜	議員	1 8
答弁者・郷司	義明	教育長	1 9
答弁者・宮津	健一	福祉保健部長	1 9
答弁者・浜田	博	市長	2 0
質問者・中村	彩子	議員	2 1
答弁者・阿南	俊晴	観光経済部長	2 1
答弁者・浜田	博	市長	2 2
質問者・高橋	剛太	議員	2 3
答弁者・宗野	隆	建設部長	2 4
答弁者・郷司	義明	教育長	2 5
答弁者・浜田	博	市長	2 5
質問者・首藤	将悟	議員	2 6
答弁者・阿南	俊晴	観光経済部長	2 6
答弁者・浜田	博	市長	2 7
質問者・池田	孝明	議員	2 8
答弁者・阿南	俊晴	観光経済部長	2 8
答弁者・浜田	博	市長	2 9

質問者・松本成葉議員	29
答弁者・郷司義明教育長	30
答弁者・浜田博市長	30
質問者・油布孝吉議員	31
答弁者・中野義幸生活環境部長	31
答弁者・浜田博市長	32
質問者・田原健太郎議員	32
答弁者・宗野隆建設部長	33
答弁者・浜田博市長	34
質問者・高木涉美議員	34
答弁者・宮津健一福祉保健部長	35
答弁者・浜田博市長	35
質問者・富松拓朗議員	36
答弁者・郷司義明教育長	36
答弁者・阿南俊晴観光経済部長	37
答弁者・浜田博市長	37
質問者・笠置昂也議員	38
答弁者・阿南俊晴観光経済部長	39
答弁者・浜田博市長	39
質問者・中島康貴議員	40
答弁者・阿南俊晴観光経済部長	41

	答弁者・浜田博市長	4 1
(休憩・再開)		4 2
・提言の発表	提言者・山下真奈議員	4 2
	答弁者・浜田博市長	4 3
	提言者・吉野葵議員	4 3
	答弁者・浜田博市長	4 4
	提言者・亀川美津希議員	4 4
	答弁者・浜田博市長	4 5
	提言者・垣迫萌議員	4 5
	答弁者・浜田博市長	4 6
	提言者・近藤千樹議員	4 6
	答弁者・浜田博市長	4 7
	提言者・小畑太哉議員	4 8
	答弁者・浜田博市長	4 8
	提言者・首藤弘樹議員	4 9
	答弁者・浜田博市長	5 0
	提言者・田口真希議員	5 0
	答弁者・浜田博市長	5 1
	提言者・塩崎芳野議員	5 1
	答弁者・浜田博市長	5 2

提言者・佐藤千聡議員	5 2
答弁者・浜田博市長	5 3
提言者・田内志於梨議員	5 3
答弁者・浜田博市長	5 4
提言者・都築慶子議員	5 5
答弁者・浜田博市長	5 6
・議員提出議案第 1 号子ども宣言について、上程	5 7
・提案理由説明 小野恭央議員	5 7
・表 決	5 8
・閉 会	5 8

[閉 会 式] 目 次

・閉会式次第	5 9
・開 会	6 1
・市長あいさつ 浜田博市長	6 1
・記念品の贈呈 郷司義明教育長	6 2
・子ども議員代表者謝辞 枳木寿々美議員	6 3
・閉 会	6 3

第 5 回「べっぷ子ども市議会」会議録

○会 期 平成 19 年 12 月 26 日(1日)

○会期日程表

平成 19 年 12 月 26 日(水)本会議 議席の指定、会議録署名議員の指名、会期の決定、一般質問、提言、子ども議員提出議案第 1 号「子ども宣言について」

○子ども議員提出議案議決結果

子ども議員提出議案第 1 号「子ども宣言について」

平成 19 年 12 月 26 日 原案可決

○一般質問者一覧表

質問 順位	質 問 議 員	質 問 項 目
1	16 番議員 東山中学校 田 原 寛 己	東山地区の観光
2	15 番議員 大平山小学校 川 原 睦 貴	温泉観光と温泉の湧出量について
3	31 番議員 北部中学校 三 角 雅 也	国体ボランティアについて
4	21 番議員 浜脇中学校 石 田 智 基	教育

5	14番議員 緑丘小学校 大友 遥 菜	バリアフリーについて
6	19番議員 山の手中学校 中村 彩子	観光
7	10番議員 上人小学校 高橋 剛太	観光都市別府の海浜公園について
8	25番議員 中部中学校 首藤 将悟	商業の活性化
9	27番議員 朝日中学校 池田 孝明	硫黄の活用法について
10	23番議員 青山中学校 松本 成葉	教育環境について
11	29番議員 鶴見台中学校 油布 孝吉	災害対策について
12	17番議員 東山中学校 田原 健太郎	国立公園指定による新規住宅の建築不可に伴う東山地区の過疎化について
13	8番議員 鶴見小学校 高木 涉美	高れい者問題について

14	13番議員 春木川小学校 富松 拓朗	外国人に優しい町づくりの取り組みについて
15	4番議員 南小学校 笠置 昂也	別府の名物料理について
16	6番議員 青山小学校 中島 康貴	別府の商店街の活性化について

○ 提言者一覧表

提言 順位	提言議員	提言内容
1	3番議員 北小学校 山下 真奈	別府の交通事故を少なくするために
2	30番議員 鶴見台中学校 吉野 葵	1学級の生徒数について
3	26番議員 中部中学校 亀川 美津希	街灯の設置
4	9番議員 亀川小学校 垣迫 萌	リサイクルとゴミの減量化について

5	11番議員 朝日小学校 近藤千樹	子どもが主役の市や町が活気づくイベントの提案
6	7番議員 南立石小学校 小畑太哉	別府の温泉について
7	2番議員 境川小学校 首藤弘樹	別府市立図書館・学校図書について
8	12番議員 石垣小学校 田口真希	世界一の温泉を活用して
9	1番議員 野口小学校 塩崎芳野	校庭について
10	24番議員 青山中学校 佐藤千聡	別府の自然を生かした施設・設備づくりについて
11	5番議員 西小学校 田内志於梨	美しい別府市にするために
12	28番議員 朝日中学校 都築慶子	別府観光のPRについて

第5回「べっぷ子ども市議会」会議録(第1号)

平成19年12月26日

出席議員(32名)

1番議員	野口小学校	塩崎	芳野	さん
2番議員	境川小学校	首藤	弘樹	君
3番議員	北小学校	山下	真奈	さん
4番議員	南小学校	笠置	昂也	君
5番議員	西小学校	田内	志於梨	さん
6番議員	青山小学校	中島	康貴	君
7番議員	南立石小学校	小畑	太哉	君
8番議員	鶴見小学校	高木	涉美	さん
9番議員	亀川小学校	垣迫	萌	さん
10番議員	上人小学校	高橋	剛太	君
11番議員	朝日小学校	近藤	千樹	君
12番議員	石垣小学校	田口	真希	さん
13番議員	春木川小学校	富松	拓朗	君
14番議員	緑丘小学校	大友	遥菜	さん
15番議員	大平山小学校	川原	睦貴	君
16番議員	東山小学校	田原	寛己	君
17番議員	東山中学校	田原	健太郎	君
18番議員	東山中学校	小野	恭央	君
19番議員	山の手中学校	中村	彩子	さん
20番議員	山の手中学校	梶木	寿々美	さん
21番議員	浜脇中学校	石田	智基	君
22番議員	浜脇中学校	奥迫	胡桃	さん
23番議員	青山中学校	松本	成葉	さん
24番議員	青山中学校	佐藤	千聡	さん

25番議員	中部中学校	首藤将悟君
26番議員	中部中学校	亀川美津希さん
27番議員	朝日中学校	池田孝明君
28番議員	朝日中学校	都築慶子さん
29番議員	鶴見台中学校	油布孝吉君
30番議員	鶴見台中学校	吉野葵さん
31番議員	北部中学校	三角雅也君
32番議員	北部中学校	西岡祐里さん

欠席議員（なし）

説明のための出席者

市長	浜田博君	副市長	松丸幸太郎君
副市長	林慎一君	教育長	郷司義明君
監査委員	櫻井美也子君	水道局長	松岡真一君
総務部長	友永哲男君	企画部長	亀山勇君
観光経済部長	阿南俊晴君	建設部長	宗野隆君
生活環境部長	中野義幸君	福祉保健部長	宮津健一君
消防長	岩本常雄君	会計管理者	加藤隆久君

その他出席者

別府市議会議長	山本一成君
別府市議会副議長	黒木愛一郎君
別府市議会子ども会を支える議員連盟会長	首藤正君
別府市議会子ども会を支える議員連盟副会長	永井正君
別府市子ども会育成会連合会会長	平松徹夫君
別府市PTA連合会会長	後藤智君

議会事務局出席者

局	長	中尾	薫	参	事	釜堀	秀樹
次	長	渡辺	敏之	議	事	濱崎	憲幸
調	査	係	長	主	査	花田	伸一
主	査	柏木	正義	主	査	石崎	聡
主	任	中村	賢一郎				

議事日程表（第1号）

平成19年12月26日(水曜日) 午前8時50分開議

第1 議席の指定

第2 会議録署名議員の指名

第3 会期の決定

第4 一般質問

第5 提言

第6 子ども議員提出議案第1号「子ども宣言について」

本日の会議に付した事件

日程第1～日程第6（議事日程に同じ）

市議会事務局長（中尾 薫君） 初めに、議長、副議長の選出ですが、あらかじめ決定されております。御紹介をさせていただきます。議長は、北部中学校2年・西岡祐里さんです。副議長は浜脇中学校2年・奥迫胡桃さんです。

なお、副議長の奥迫さんは後で入室されます。

それでは、西岡さん、議長席までお願いいたします。

午前8時50分 開会

議長（西岡祐里さん） おはようございます。

ただいま、ご紹介をいただきました、議長役の北部中学校の西岡祐里と副議長役の浜脇中学校の奥迫胡桃さんです。

私たちのまち別府が楽しく、住みよいまちになるように、きょうの子ども市議会をがんばりたいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

これより第5回べっぴん子ども市議会を開催いたします。

開会にあたり、市長さんをはじめ多くの皆さんの出席をいただきました。

本日の議事は、「議事日程第1号」により行います。

日程第1により、議席の指定を行います。

議席は、議長において指定いたします。

議席番号と氏名を職員の方に読み上げてもらいます。

市議会事務局（永野修子さん） それでは、議席番号と氏名を読み上げますので、「はい」と返事をし、その場で起立の上、一礼をしてください。

- | | | | | |
|------|--------|----|-----|----|
| 1番議員 | 野口小学校 | 塩崎 | 芳野 | さん |
| 2番議員 | 境川小学校 | 首藤 | 弘樹 | 君 |
| 3番議員 | 北小学校 | 山下 | 真奈 | さん |
| 4番議員 | 南小学校 | 笠置 | 昂也 | 君 |
| 5番議員 | 西小学校 | 田内 | 志於梨 | さん |
| 6番議員 | 青山小学校 | 中島 | 康貴 | 君 |
| 7番議員 | 南立石小学校 | 小畑 | 太哉 | 君 |
| 8番議員 | 鶴見小学校 | 高木 | 渉美 | さん |
| 9番議員 | 亀川小学校 | 垣迫 | 萌 | さん |

10番議員	上人小学校	高橋剛太君
11番議員	朝日小学校	近藤千樹君
12番議員	石垣小学校	田口真希さん
13番議員	春木川小学校	富松拓朗君
14番議員	緑丘小学校	大友遥菜さん
15番議員	大平山小学校	川原睦貴君
16番議員	東山小学校	田原寛己君
17番議員	東山中学校	田原健太郎君
18番議員	東山中学校	小野恭央君
19番議員	山の手中学校	中村彩子さん
20番議員	山の手中学校	梶木寿々美さん
21番議員	浜脇中学校	石田智基君
22番議員	浜脇中学校	奥迫胡桃さん
23番議員	青山中学校	松本成葉さん
24番議員	青山中学校	佐藤千聡さん
25番議員	中部中学校	首藤将悟君
26番議員	中部中学校	亀川美津希さん
27番議員	朝日中学校	池田孝明君
28番議員	朝日中学校	都築慶子さん
29番議員	鶴見台中学校	油布孝吉君
30番議員	鶴見台中学校	吉野葵さん
31番議員	北部中学校	三角雅也君
32番議員	北部中学校	西岡祐里さん

以上でございます。

議長（西岡祐里さん） ただいま、職員の方に読み上げていただいたとおり、議席を指定いたします。

次に、日程第2により、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、

1番 塩崎芳野さん

6番 中島康貴君

24番 佐藤千聡さん

以上、3名の方をお願いいたします。

次に、日程第3により、会期の決定を議題といたします。子ども市議会の会期は本日一日といたしますが、ご異議ありませんか。

〔〔異議なし〕の声あり〕

議長（西岡祐里さん） ご異議なしと認めます。

よって、子ども市議会の会期は本日一日と決定いたしました。

次に、日程第4により、一般質問を行います。一般質問者は16名です。質問順位により、質問をお願いいたします。

最初に、16番議員、東山小学校の田原寛己君の一般質問をお願いいたします。

〔16番議員 田原寛己君、登壇〕

16番議員（田原寛己君） ぼくは東山小学校の田原寛己といたします。東山地区の観光ということでお伺いしたいと思います。

ぼくたちの東山小学校の近くには、鶴見岳や志高湖、神楽女湖など自然の美しさを生かしたすばらしい観光地がたくさんあります。ショウブの花が咲く6月を初め、春から夏にかけてのころはたくさんの観光客が来て、大変にぎわいます。しかし、シーズンが終わると訪れる人もいっぺんに少なくなってしまいます。秋から冬にかけて楽しめるような花をもっと植えるなど、1年を通して観光客の方が訪れ、楽しめるような施設にすべきだと思います。

別府にはたくさんの方が温泉に入りに行ってきます。その人たちが東山の観光地に立ち寄り四季を通じて楽しんでもらえたら、もっともっといいのになと思います。

別府市としてはこのことをどのようにお考えか、お聞かせください。

議長（西岡祐里さん） 観光経済部長。

観光経済部長（阿南俊晴君） お答えいたします。

東山地区は、阿蘇くじゅう国立公園に属しておりまして、今、田原議員が言われましたように観光施設では志高湖、またキャンプ場、それから鶴見岳のロープウェイ、リンゴ園、それから神楽女ショウブ園等がございます。この自然環境を生かして鶴見岳の一気登山、それから湯けむり健康マラソン、志高湖火祭りなど多くの催しも開催をされております。

冬の時期には訪れる人も少なくなりますが、観光施設として鶴見岳では霧氷、また大寒がまん大会、城島のアイススケートなど多くのお客様が訪れております。

また、昨年から志高湖では11月から3月まで志高湖フィッシングとしてニジマス釣りを楽しむことができるようになりました。冬の志高湖の新しい観光資源になればと思っております。

議長（西岡祐里さん） 市長。

市長（浜田 博君） 田原寛己議員の質問にお答えいたします。

四季を通じてもっと観光客の皆さんに来てほしいという田原議員の気持ちを大変うれしく思います。

東山地区は素晴らしい自然環境に恵まれております。それを生かした施設やイベントがたくさん行われておるわけですが、市民または観光客の憩いの場として多くの方が訪れております。冬の時期には訪れる方が少ないという指摘でございますが、今、部長が答弁したように各施設においてさまざまな取り組みを今行っているところでございます。それと同時に、この自然をいつまでも大切に思い、守っていくということが非常に重要なことだと思っております。そのために地域の自然についてもっと関心を持っていただきたいと思うわけでございます。

冬は野鳥観察に最適な時期でございますし、大分サンショウウオを初め、貴重な動植物も多く生息をしているわけでございます。このような豊かな自然そのものを楽しんでいただけるように、これからも頑張っていきたいと思っております。貴重な質問をありがとうございました。

議長（西岡祐里さん） 16番。

16番議員（田原寛己君） ありがとうございました。これで質問を終わります。

議長（西岡祐里さん） 次に、15番議員、大平山小学校の川原睦貴君の一般質問をお願いいたします。

[15番議員 川原睦貴君、登壇]

15番議員（川原睦貴君） 温泉観光と温泉の湧出量について。

ぼくの家のおふるは温泉です。温泉に入るととても気持ちいいので、別府に生まれてよかったと思います。そんなときに考えたことがあります。

それは別府に来て温泉に入っている観光客の数が昔に比べて減っているのではな

いかということです。別府は温泉が有名で観光のまちとして栄えてきたのに、ここ最近では湯布院や黒川温泉にお客さんが行ってしまっているような気がします。

そこで質問です。別府が観光のまちとして活気を取り戻すために、どんな対策を考えているのかを教えてください。ぼくは別府にもっともっとお客さんが来て、にぎやかになってほしいと思っています。

それともう一つお聞きします。それは温泉の湧出量です。家のお風呂もときどきお湯が出なくなります。そこで別府全体では温泉の湧出量がどうなっているのか教えてください。

大平山小学校・川原睦貴。

議長（西岡祐里さん） 観光経済部長。

観光経済部長（阿南俊晴君） お答えをいたします。

別府が観光のまちとして活気を取り戻すという対策のご提言でございます。

これまでの「見る観光」から、観光も地域の人との交流また体験を行うという観光のスタイルが変わってきております。これにより別府市では現在「ONSENツーリズム」を推進をしております。これは温泉、文化、町並み、また景観などを観光資源として生かすための取り組みでございます。観光関係の仕事をしている人だけでなく、市民の方も一緒にまちづくりに取り組むということが必要でございます。これからも皆さんのまちづくりの活動を積極的にお手伝いをし、別府のまちを元気にしていきたいと考えております。

次に、温泉の湧出量でございますが、平成17年に「日本温泉協会」が発表した統計によりますと、別府市全体の湧出量は全国第1位で、その量は1分間に95,284リットルとなっております。泉源の数も2,838カ所で全国第1位でございます。

議長（西岡祐里さん） 市長。

市長（浜田 博君） 川原睦貴議員の質問にお答えします。

今、別府市が掲げる観光にかわって、ローマ字の「ONSENツーリズム」という言葉を遣わせてもらっておりますが、「ONSENツーリズム」のまちづくりを進めております。ここでせっかくの機会ですから、なぜ「ONSENツーリズム」なのかということをお話をさせてください。

観光というのはこれまで「見る観光」、物見遊山的なイメージでとらえられておりましたが、今、部長が答弁をしたように「ONSENツーリズム」ということで、機構改革として今度は市役所の中にも4月から「ONSENツーリズム部」という全国で初めてですが、できます。

なぜローマ字なのと。「ONSEN」というものを世界共通語にしたいという思いです。「温泉」というのは「ホットスプリング」、いわゆるおふろのことですね。それともう一つは「音泉」と書いて「おんせん」と呼びます。音楽、ミュージックなんです。そういう文化芸術をしっかりと高めていきたいという思いで、この2本立ての「ONSENツーリズム」のまちづくり、それはどういうものかといいますと、「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりです。皆さんが今住んでいる所、「ああ、住んでよかったな」と思えるまち、そしてお客さんが来たときに「ああ、心が温かいまちだな」と。もう一度そこに行ってみたいと思えるまち。観光立市の別府にとっては「住んでよし」、そしてお客様が訪れて心が温かいと感じるまち、「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりが「ONSENツーリズム」のまちづくりです。これを観光立市の別府は今中心に進めております。そのことを全議員の皆さんによく知っていただいて、これからの皆さんの質問の中には全部「ONSENツーリズム」に通じる内容となっておりますので、環境や福祉や経済や、いろんな問題が全部含まれております。すべて観光立市の観光というものに結びつく。そこには人との交流、笑顔、別府によくいらっしやいましたと、笑顔で皆さんがお客さんを迎えることができますかと、こういうことですね。そういう意味でぜひ「ONSENツーリズム」というものは、どういうまちづくりなのかということを知っていただけたらと思います。

少し時間をとってごめんなさいね。みんなにわかってほしいために、そのような説明をさせてもらいました。自分のまちに誇りを持つということも大事ですね。そして自分たちがこのまちに生まれて育ったこと、お父さん、お母さんに感謝をする、地域のおじちゃんやおばちゃんにみんな安全安心のまちづくりのためにしっかり皆さんを守っていただいている地域の皆さんにも感謝をする。そういう思いで自分のまちに誇りを持つということが大切ですね。

それから先ほど湧出量の話もありました。わかりましたか、湧出量というものは。

単位で説明したのでわかりにくかったと思いますが、たとえば湧出量は日本一なんですね。1日に13万7千キロリットルもどんどん本物の温泉が出ております。その単位の中でどのくらいかと言いますと、学校の25メートルプールがありますね。このプールの200杯分です。別府はあの200杯が毎日出ているんです。ずば抜けて日本一ですね。ちなみに第2位は大分県の湯布院です。しかしそれも別府の3分の1くらい。第3位はよその都市にあります。だから1位、2位を大分県が独占している。その第1位はずば抜けて別府が日本一だということです。泉源の数も泉質もそうです。そのことをぜひ知っていただきたいと思います。

川原議員の別府にもっとお客さんが来てにぎやかになってほしいという思いは、大変うれしく思います。別府市でも自然の恵みや、また温泉を大切にしながら、観光のまち・別府に活気を取り戻すように、元気な別府になるように頑張っていきたいと思っております。貴重なご質問ありがとうございました。

議長（西岡祐里さん） 15番。

15番議員（川原睦貴君） ありがとうございました。これで質問を終わります。

議長（西岡祐里さん） 次に、31番議員、北部中学校の三角雅也君の一般質問をお願いいたします。

[31番議員 三角雅也君、登壇]

31番議員（三角雅也君） ぼくの質問は、来年2008年に開催される大分国体で何かお手伝いができることはないかということです。

ことしの秋田国体には、私たちの学校から2名の生徒が選手として出場し、活躍しました。来年の国体は約40年ぶりにここ大分の地で大分国体が開催されます。その次は、また40年から50年後となります。ですから、中学生として体験する来年の国体でぼくたちが何かできることはないでしょうか。別府に来て一生懸命がんばっている選手や関係の方々に、少しでも活躍してもらうために中学生でもできるようなボランティアがあればと思います。そして別府に来られた方に別府のよさを味わって帰ってほしいと思います。中学生としてできることがありましたら、よろしくをお願いします。

議長（西岡祐里さん） 企画部長。

企画部長（亀山 勇君） お答えいたします。

第63回チャレンジ・大分国体が約42年ぶりに大分県で開催をされます。別府市におきましても水泳や体操競技を初め、6競技9種目が市内の競技会場で行われることになっております。この大分国体を成功させるためにも、別府市におきましても現在ボランティアの募集をさせていただいております。この募集につきましては、中学生以上で、個人でもグループでも応募することができるようになっております。来年の国体開催までに私どもは800人のボランティアの募集をしておりますけれども、今のところ中学生、高校生からの応募状況は20名弱という状況でございます。

三角議員のように一人でも多くボランティアとして国体に参加をしていただき、全国から集まった選手や監督、応援団の皆様方に対し別府のよさをぜひ伝えていただきたいと思っております。

議長（西岡祐里さん） 市長。

市長（浜田 博君） 三角雅也議員の質問にお答えします。

北部中学校から2名の生徒の皆さんが選手として秋田国体に出場をされたと。大変うれしいことでございます。きっと秋田では、ボランティアの皆さんから心温まるおもてなしを受けたことと思います。

別府市の国体開催の実施目標の一つに、大会に参加をする全国の友だちに温かいおもてなしの心で接して、友情とふれあいの輪を広げるとともに、別府市の人、そして自然、文化などを広く全国へ情報発信するということがあります。これは三角議員の別府に来られた人に別府のよさを味わって帰ってほしいという気持ちのことでございます。

来年の国体には、全国からたくさんの選手や監督、関係者の皆さんが競技、また観戦するお客様もたくさん訪れます。大人だけではなくて、中学生や高校生の皆さんにもボランティアとして参加をしていただき、それぞれの係できめ細かい対応をしていただきたいと、このように思っております。三角議員にもぜひご家族やお友だちを誘って、ボランティアとしてご参加をいただきたいと思います。おもてなしの心、これが「ONSENツーリズム」につながる思いでございますので、ぜひボランティアに参加をしてください。貴重な質問、ありがとうございました。

議長（西岡祐里さん） 31番。

3 1 番議員（三角雅也君） ありがとうございます。ほくもボランティアに参加して、大分国体を盛り上げていきたいので、よろしくお願ひします。これでほくの質問を終わります。

議長（西岡祐里さん） 次に、2 1 番議員、浜脇中学校の石田智基君の一般質問をお願ひいたします。

[2 1 番議員 石田智基君、登壇]

2 1 番議員（石田智基君） ほくは教育について質問したいと思ひます。

ほくの通っている浜脇中学校は、3 0 年以上も前から建っているとても古い学校です。学校が古いためか、トイレの壁やドアが壊れたり、雨漏りがひどかったり、壁から水が漏れてきたりして、いろいろな場所を修理しています。しかし、まだ雨漏りがしたり床に水がたまったりしています。先生方や生徒会で修理をすることも多いのですが、なかなかうまくいきません。校舎が新しくなったらいいなとほくたちは思っています。これから浜脇中学校の校舎は、改築される予定はあるのでしょうか。あるとすればいつごろになるのでしょうか。

議長（西岡祐里さん） 教育長。

教育長（郷司義明君） お答えいたします。

まず初めに、石田議員や浜脇中学校の生徒会の皆さん方、そして先生方が一緒になってトイレや壁の修理などをしていただいていることに対し、教育委員会といたしまして大変うれしく思っております。学校を大切にさせていただいて本当にありがとうございます。

石田議員のご質問の校舎の改築の件でございます。今、石田議員からお話がありましたように浜脇中学校、特に南校舎、今1年生や2年生が使っていると思ひますが、もう3 0 年以上たって、大変外や内からもいろいろと不便を感じているということを、教育委員会もよく存じております。

今、別府市は幼稚園、小学校、中学校、そして別府商業高校を併せて4 1 の園や学校があります。そして皆それぞれ建てた歴史も違ひますし、新しい校舎もあれば古い校舎もあります。古い校舎から大規模改築をしながら、そしてまた地震が来ても耐えられるような補強をしながら、今学校を見回っているところでございます。これからは地震に備えまして、特に耐震補強これを強化したいと考えております。

まずこれを最優先にやります。そして今、議員から御指摘がございましたように古い校舎を持っている学校の改築の計画をしたいと考えているところでございます。

それで、いつからかということをおっしゃいましたが、いつからやりますということはなかなか言えませんが、しっかりと計画を立てていきたいと思っております。これから皆さん方が校舎等を修理していただくわけですが、どうしてもみんなの手に負えないときは、校長先生を通して何なりと教育委員会の方に申し出ていただきたいと思います。

議長（西岡祐里さん） 市長。

市長（浜田 博君） 石田智基議員の質問にお答えいたします。

学校は石田議員を初め子どもたちみんなが1日の大半を過ごす場所です。学習、生活の場でございます。石田議員の学校環境の改善を思う気持ちは痛いほどわかりますし、大変うれしく思っております。

しかし、先ほど教育長が答弁をしたように、校舎の改築となりますと大変な費用がかかるわけでございます。なかなかこれも計画的に考えないといけないという部分があると思います。私たちが全力で皆さん方が快適に勉強をしやすい、生活をしやすいそういう環境づくりに努めていきたいと思っておりますので、石田議員も引き続き学校を愛し、大切にさせていただきますようお願いをいたします。貴重な質問、ありがとうございました。

議長（西岡祐里さん） 21番。

21番議員（石田智基君） ありがとうございました。これで質問を終わります。

議長（西岡祐里さん） 次に、14番議員、緑丘小学校の大友遥菜さんの一般質問をお願いいたします。

[14番議員 大友遥菜さん、登壇]

14番議員（大友遥菜さん） 私は別府のバリアフリーについて質問します。

新しい建物にはエレベーターやスロープが設置されていて、障がい者が自由に移動することができますが、古い建物や学校にはまだ設置されていません。学校にエレベーターやスロープが設置されれば、車いすに乗っている友だちとも一緒に学べると思います。今後、別府市ではいろいろなところにスロープやエレベーターをつける計画があるのでしょうか。

また、別府市では盲導犬の数が少ないと聞きます。目の不自由な人が動くには、盲導犬がもっとたくさんいたらいいと思います。別府市では、盲導犬を育てる場が現在あるのでしょうか。

さらに、盲導犬について市民の皆さんが理解を深める場や機会があるのでしょうか。回答をお願いします。

議長（西岡祐里さん） 教育長。

教育長（郷司義明君） お答えをいたします。

今、大友議員の質問のスロープやエレベーターをつけるかということでございました。今、車いすを使う子どもたちが学校に入学する場合は、家のお父さんやお母さん、そして学校の先生、教育委員会としっかり相談をして、その子どもがどこから校舎に入るのがいいのか、それからまたどこの教室に入ったらいいいのか、しっかり相談をしているところでございます。その結果、スロープをつけたり、それから2階に上がるときには上がるための機械を取り付けたり、トイレを改修したりして今準備をしている学校もございます。ただ、エレベーターをつけるということになりますと、校舎が古い場合はそのスペースの問題、それからまた壁を変えたりいろいろと大変な工事になります。それで古い建物にエレベーターをつけるということは、なかなかむずかしいことがございます。しかし、新しく建てた南小学校にはエレベーターがついております。これからまた別府市で新しく学校を建てる場合には、エレベーターをつけるということも考えていかなければならないと思っております。

福祉保健部長（宮津健一君） お答えいたします。

盲導犬につきましては、全国で約950頭の盲導犬が現在活躍をしております。これに対しまして盲導犬を必要としている視覚障がい者の方は、全国で約7,800名ほどいらっしゃる聞いております。ということは、盲導犬の希望者に対して盲導犬の数がかなり不足している状況でございます。

現在、大分県には15頭の盲導犬がいます。そのうち2頭が別府市で活躍をしております。来年の春には別府市内の希望者への割り当てが決まっております、あと1、2頭増えるんではないかと思っております。

盲導犬を訓練する施設でございますが、現在まで9つの施設がございます。しかし別府市にはこの施設がございません。この施設では年間約110から130

頭くらいの盲導犬の訓練をしております。

それから盲導犬についての理解を深める場や機会でございますが、大分盲導犬協会が盲導犬とのふれあいの催し物を年に2回別府市で開催をしております。ことしは8月26日の盲導犬とのふれあいには、県下から10頭の盲導犬が参加をしております。また、今月12月12日ございましたが、大分盲導犬協会の会長でございます湯沢さんが、盲導犬の「ラム」と一緒に大友議員が通う緑丘小学校に訪問いたしました。そして生徒さんが実際にアイマスクをして盲導犬との歩行を体験したり、また湯沢会長さんのお話をお聞きしたと聞いております。これからは多くの方々が盲導犬に対する理解を深めていただきたいと思いますと思っております。

議長（西岡祐里さん） 市長。

市長（浜田 博君） 大友遥菜議員の質問にお答えいたします。

大友議員の障がい者を思いやるやさしい気持ちが伝わってまいりました。先ほど教育長が答弁をしたように、学校以外においてはJR別府駅に大分県で初めてエレベーターがつけました。そして、つい今月の初めから亀川駅にもエレベーターができました。車いすを利用する方が多く住んでいる亀川地域、JR亀川駅が今度は駅舎もやりかえるようになりました。それから駅前広場も整備をされます。さらには自由通路といって、太陽の家がある西口の方と東口がつながります。これは車いすが利用できる濡れなくて済む屋根付き4メートルの通路で車いすのまま西口から乗って改札口に降りて電車に乗れるという状況が今度出来上がります。今までは車いすの方は段差があったり、エレベーターもないので別府駅まで行って乗っていたんですが、もう亀川駅で乗り降りができるという状況が出来上がると思いますので、ぜひ楽しみにしていただきたいと思います。

また、道路についても障がい者の方たちが自主的に行っているバリアフリー探検というものがあります。その感想を参考にしながら、できるところから改修を今進めております。障がい者が安心して生活を送り、積極的に社会参加ができますように、福祉のまちづくりを推進しているわけでございます。段差の解消やたとえば交差点でもちょっとでも段差があるとひっかかってこけるわけですから、そういう部分もしっかり今交差点を中心に段差の解消をやっているところでございます。今後も皆さんの意見を伺いながら、障がい者への取組みを一生懸命頑張っていきたいと

思います。貴重な質問、ありがとうございました。

議長（西岡祐里さん） 14番。

14番議員（大友遥菜さん） ありがとうございました。これで質問を終わります。

議長（西岡祐里さん） 次に、19番議員、山の手中学校の中村彩子さんの一般質問をお願いいたします。

[19番議員 中村彩子さん、登壇]

19番議員（中村彩子さん） 私は観光について質問します。

別府は温泉の観光地としてたくさんの人々が訪れています。特に外国の人たちの姿をよく見かけます。しかし、観光客全体としては減少していると聞いたことがあります。

そこで3つ質問があります。

1つ目は、他県の人たちに別府のよさなどをどう宣伝しているか教えてください。

2つ目は、ある温泉地では、その地域に住む人ならだれでも安い金額で温泉を家庭に引くことができると聞きました。別府でもそのような計画が考えられているのか教えてください。

3つ目は柴石温泉のことです。柴石温泉は有名で人気もある温泉ですが、蒸し湯が最近故障したらしいので、修理はされていくのでしょうか。

以上、3点についてよろしく申し上げます。

議長（西岡祐里さん） 観光経済部長。

観光経済部長（阿南俊晴君） お答えいたします。

まず他県への宣伝ということでございますが、別府市を訪れる観光客数は年間約1,170万人でございます。そのうち約300万人が福岡からのお客様ということは、一番大きなウェートを占めております。福岡県への宣伝では、プロ野球の試合におきまして、福岡ヤフドームで観客の方々に別府の温泉たまごであるとか、足湯を楽しんでいただくとか、そういうことで別府の魅力をお伝えをし、旅行会社の方には別府への旅行ツアーなどの企画をお願いいたしております。

また、そのほか九州各県等におきましては、各種イベントに参加をして別府の観光宣伝を行っておりますし、東京、大阪等の都会におきましても、機会を見ては別府宣伝を行っております。

次に、一般家庭に温泉を引くことができないかということでございます。別府市では市内の共同温泉、また病院に温泉の供給を行っておりますが、一般家庭には供給をいたしておりません。今後の計画につきましても、今ご質問をいただきましたが、一般の家庭への供給の計画は今のところはございません。ぜひ共同温泉等を利用していただければと思っております。

また、最後に柴石温泉の蒸し湯についてでございます。泉源の湯量が少なくなりました、温度も低くなったということで、ことしの夏に大分県知事の許可をいただきまして、掘る工事を行いました。十分なお湯の量が今確保できていないということで、担当課の方におきましても今対策を考えております。営業再開の時期につきましては現時点では、はっきりしないというのが現状でございます。

議長（西岡祐里さん） 市長。

市長（浜田 博君） 中村彩子議員の質問にお答えいたします。

他県への宣伝ということでございますが、今部長が答弁したように、特にお客様が多いのは福岡県なんです。別府には、年間約300万人来ていただいているということで、福岡県を中心に毎年観光ミッションという形で、別府市議会の議長さんを初め、議員の皆さん、そして観光協会の皆さんと一緒に宣伝に出ています。この2年間、福岡にヤフードームがあります。そこに別府の鉄輪の温泉を持って行って、そこで足湯につかっていただいたり、それから大分県の一村一品を売っていただいたり、「別府、別府」ということで大分県と一緒に協力をして宣伝をしております。特にヤフードームでは、3万5千人の観衆の前で私は始球式でピッチャーをしまして、この前亡くなった稲尾和久さんがキャッチャーをしてくれたり、そういうところで別府のはっぴを着てしっかりと宣伝をした思い出がよみがえってまいりました。福岡県を中心に観光宣伝をしているということを御理解いただきたい。

それから外国からのお客さんも増えております。海外への観光宣伝ということで、ソウルや台湾に毎年行っております。これも議会の皆さん、観光協会の皆さん、旅館組合、いろんな団体が一緒になって海外に向けて宣伝隊を観光ミッションという形で送っております。向こうの旅行関係者と一緒にお話をしながら、9施設ある別府のアフリカンサファリやハーモニーランド、高崎山、いろんな代表の皆さんが行って、説明するという状況も今つくりつつあります。

特に、韓国にはソウルのまちで私も別府のはっぴを着て、別府のパフレットを配りますと、皆さん喜んで取りに来ます。本当に日本では考えられないくらい今、韓国や台湾の皆さんは別府に非常に興味を持って、温泉やゴルフに非常に興味を持って別府に来るということを楽しみにしているようでございます。今海外からのお客様さんは、年間22万人が来ていただいております。そのうち17万人が韓国からですから、いかに韓国のお客様が日本、別府に来ているかということがおわかりいただけたと思います。多くの方に別府を訪れていただいて、大切なのはその方々に「また別府に行こう」と、こう思っていただけ。先ほどの「ONSENツーリズム」ですね。「ああ、心が温かいまちだな。また来るよ」と、こう言っていただけのようなおもてなし、市民一人一人がお客様の気持ちになって温かくお迎えをする、そういう気持ちを持つことが大切だと思っております。

休業中の柴石温泉の蒸し湯についてですが、中村議員を初めたくさんの皆さんに大変ご迷惑をおかけして申し訳ございません。日本一の別府温泉ではありますが、温泉は自然の恵みでございまして、量が急に減ったり、増えたりとまったり、いろんな状況が起こります。人間の思い通りにならない部分もあるわけですが、少しでも早く営業が再開できるように努力していきますので、もうしばらくお待ちをいただきたいと思っております。貴重な質問、ありがとうございました。

議長（西岡祐里さん） 19番。

19番議員（中村彩子さん） これからももっと別府が栄えていきそうに思いました。

ありがとうございました。これで質問を終わります。

議長（西岡祐里さん） 次に、10番議員、上人小学校の高橋剛太君の一般質問をお願いいたします。

[10番議員 高橋剛太君、登壇]

10番議員（高橋剛太君） ぼくは観光都市別府の海浜公園について質問したいと思います。

別府市にはいくつかの海浜公園があります。たとえば上人ヶ浜です。上人ヶ浜はぼくたちの学校の校区内にあり、遠足でよく行く場所です。芝生がきれいに整備されていたり、海岸線に沿って遊歩道があったり、別府市の美術館や砂湯があったりと、一般の市民だけではなく観光客の人たちもたくさんいて、くつろいだり楽しん

だりできる公園です。でも、気になることがあります。それは公園の歩道にタイルが敷きつめられていて、見た目はよいけれども、車いす、ベビーカーを押すのには不便であるということです。障がいを持った人や老人、小さな子どもがタイルにつまずいたりすると、危険であるし不親切だと思います。

また、美術館から遊歩道に出るところの傾斜もとても急で危なかったです。そして美術館についても、もっと別の活用方法はないのかなとも思います。美術館の横の砂湯にはたくさんの観光客や地元の人たちが入りに来ます。そこで、美術館の中に別府のシンボルの温泉のことを詳しく学習できる資料や本をたくさん置いたり、体験型の楽しいコーナーをつくったりすれば、もっと別府の温泉のよいところを知ってもらえると思います。

また、別の海浜公園のスパビーチについても、立入禁止の休憩所があり、見た感じも悪く、気味が悪いなと思います。

このように観光都市別府の海浜公園のあり方について、別府市はどのように考えているのかお聞かせください。

議長（西岡祐里さん） 建設部長。

建設部長（宗野 隆君） お答えいたします。

市内には大小併せて159カ所の公園がありますが、その中で上人ヶ浜と的ヶ浜の2つの公園が海辺に面した海浜公園となっています。市民や観光客がきれいな別府湾をながめ、安心して水辺に親しめる場所としてこれからも大事にしていかなければならないと考えています。

ご質問の上人ヶ浜についてですが、この公園は整備を初めてすでに37年がたちました。最初のころつくった場所で一部バリアフリーとなっていない箇所があります。現在、少しずつではありますが整備を進め、たとえば展望台に車いすが上げられるように、また歩道からの入り口にスロープをつけたり、川にかかる橋を平らな構造にもしています。これからも引き続き整備、改修を行っていきます。

次に、的ヶ浜公園の休憩所ですが、ここで毎日寝泊まりや火をたいたりする人がいたため、仕方なく立ち入り禁止といたしました。現在、イベントのときにだけ利用するようにしていますが、この後どのようにしたら一番いいか考えているところです。

議長（西岡祐里さん） 教育長。

教育長（郷司義明君） お答えいたします。

現在、別府市の美術館には絵や工芸品だけではなく、歴史的な資料としまして温泉にかかわる資料等も展示しております。しかし、ご存じのように今の美術館はあまり広くございません。それで温泉にかかわる資料は一部亀川浜田町にある温泉資料館の方に移しております。高橋議員御指摘のようにこれからもっと温泉にかかわる資料や本を展示したらどうかということもしっかり考えていきたいと思ひますし、何か温泉にまつわる体験型コーナーでどんなものができるのか、考えてみたいと思ひているところでございます。

議長（西岡祐里さん） 市長。

市長（浜田 博君） 高橋剛太議員の質問にお答えいたします。

高橋議員の高齢者やまた障がい者の皆さんへのやさしい心遣い、本当に大変うれしく思ひます。別府市は雄大な山、そして海岸線、海に囲まれた美しいまちでございます。その特性を生かしたまちづくりをするということは、非常に大切だと思ひております。今、海岸線を162億円という国のお金をいただいて直轄事業で整備がされております。餅ヶ浜から北浜A地区、B地区、そして上人ヶ浜公園、海水浴場の関の江海岸、ずっと整備がされていきます。簡単に言うとテトラポットが海岸線にあります、テトラポットが全部なくなって、昔の砂浜がきれいに戻ってまいります。そうしますと、今ご指摘をいただいたように海岸線にある公園をどのように整備をしていったらいいのか、そのことが大切になるし、海をながめながら、そして海に親しみながら散策をしたり遊んだりできる、そういう公園として整備をしていかなければならないと思ひております。

また、多くの観光客が訪れる別府市では、公園だけではなくて、道路や公共施設におきましても、だれもが利用しやすいように段差をなくしたりスロープをつけたり、バリアフリー化を推進していかなくてはならないと思ひております。別府に住んでいる人も、別府を訪れる人にも喜んでもらえる安心、安全な美しいまちづくりを進めていきたいと思ひております。

これからも人を思いやるやさしい気持ちをぜひ大切にしていきたいと思ひます。貴重な質問、ありがとうございました。

議長（西岡祐里さん） 10番。

10番議員（高橋剛太君） ありがとうございます。これからの海浜公園がもっと発展していくように願っています。これでぼくの質問を終わります。

議長（西岡祐里さん） 次に、25番議員、中部中学校の首藤将悟君の一般質問をお願いいたします。

[25番議員 首藤将悟君、登壇]

25番議員（首藤将悟君） ぼくが質問したいことは、商業の活性化についてです。

ぼくは普段は余り別府のまちに行きませんが、祭りのときは家族や友だちと一緒にいきます。そのとき、駅のあたりには屋台が多く出てにぎわっていますが、商店街では人通りも少なく、祭りのときでさえ少し静かな気がします。そしてときどき商店街を通りかかったときもぼく自身が余り店の中をながめることはありません。湯の町べっぷにきた観光客はどうなのでしょう。

さらに、ことしは「ゆめタウン」ができました。別府に各地から人が集まるようになり、今までより商店街がにぎわうようになればいいと期待しています。別府に昔からある商店街を大事に見守りながら、さらに別府がより住みやすく魅力的なまちになるようにぼくは願っています。

そこで質問です。別府の商業を活性化させるために「ゆめタウン」のような大型商業施設の誘致計画はまだほかにあるのか。ファンタジアのようなイベントを増やす予定があるのか、教えてください。

議長（西岡祐里さん） 観光経済部長。

観光経済部長（阿南俊晴君） お答えいたします。

現在、駅前やその周辺など中心市街地の活性化に取り組みを始めたところでございます。商店街に新たな魅力を生み出すことで別府の商業の活性化を図っていきたいと考えております。

今後の大型商業施設の誘致計画につきましては、現在具体的な計画はありません。今回の誘致につきまして、いろんな角度から検証する必要があると思っております。そうした検証をしながら商業施設に限らず今後の誘致計画に結びつけていきたいと思っております。

また、イベントにつきましては、歴史あるものを大切にしながら、今後魅力ある

新たなイベントの開催について、関係者の皆様方と協議しながら取り組んでいきたいと考えております。

議長（西岡祐里さん） 市長。

市長（浜田 博君） 首藤将悟議員の質問にお答えいたします。

大型商業施設である「ゆめタウン」、この誘致の目的というのはいわゆる中心市街地の活性化が目的でございます。そういう意味でその効果を別府市全体につなげていかななくてはいけない。今、年間800万人来るだろうと予想しています。そのお客さんがそこに来て、そこで帰ってしまえばだめなんです。別府八湯を生かしたまちづくりをしっかりと今進めていただいていますから、鉄輪もおもしろいね、観海寺にも浜脇にも行ってみようかと思えるまちづくりをしっかりとすること、これが私たちに課せられた課題だと思います。そして来たお客さんがそこだけではなくて、いろんなところに行ってみようと思えるようなまちづくりをこれからしっかりと、お客さんがずっと市内を回っていただくようなそういう部分を考えていかななくてはならないというふうに思っております。

今後も大型商業施設の誘致計画があるかということですが、先ほど部長がお答えしたように、まずこの事業の検証が必要だと思います。しっかりと来たお客さんが別府に来てよかったなど。あそこもここも楽しいなと思えるようなまちづくりをしっかりと進めて、お客さんがどのくらい来て、そしてどのくらいお金を別府に落としていただいたのか、そういった検証をしっかりとしながら、これからの施設なり大型施設を誘致する計画も立てなくてはならない。検証の上に立って、積み重ねによって生まれてくるというふうに思っております。より効果的にこれを結びつけていきたいと思っているところです。

また、イベントにつきましては、いろいろと実行委員会の中で工夫をいただいております。かつてにぎわいのあった別府のまちを取り戻そうという皆さんの気持ちで、たとえば7月の終わりに夏の宵祭りというものがあります。花火大会もあるし音頭大会もあるし、その夏の宵祭りでは別府の「ワイワイ市」というものを復活させました。駅前通りを浴衣がけで歩いてくださいということで、駅前がしっかりとにぎわっております。そして海門寺公園では昔の屋台を再現をしていただいたり、そういったイベントをしっかりと復活させる計画をしながら、にぎわいを今少しずつ

つくり出しているという状況でございます。

首藤議員もこんなイベントを開いてほしいという希望がありましたら、遠慮なくまたどしどしアイデアとご意見をいただきたいなと思っております。貴重な質問、ありがとうございました。

議長（西岡祐里さん） 25番。

25番議員（首藤将悟君） ありがとうございました。これでぼくの質問を終わります。

議長（西岡祐里さん） 次に、27番議員、朝日中学校の池田孝明君の一般質問をお願いいたします。

[27番議員 池田孝明君、登壇]

27番議員（池田孝明君） ぼくは、硫黄の活用方法について質問したいと思います。

別府にはたくさんの温泉がありますが、中に臭いの強いものがあります。その臭いのもとが硫黄です。ぼくは以前、その硫黄がゴムの弾力を増すために使われているということを聞いたことがあります。

そこで、別府の硫黄も産業に使えるだろうかと考えました。ぼくは、硫黄のことについてもっと調べてみました。硫黄は、酸化物になると酸性雨の原因になるそうです。このように硫黄には危険な面があります。その一方で、硫黄はぼくたちの生活に身近で有効なものに使われていることもわかりました。具体的には、ゴム、農薬、洗剤、肥料、塗料などです。現在、硫黄は原油を石油に精製する際に取り除かれて得られることが多いようです。しかし、その原油も残り少ないと言われていいます。また、原油価格も高騰しています。このままでは生活にかかわっている硫黄が今よりも少なくなるのではないのでしょうか。

そこで質問です。別府市では現在、硫黄を使った産業はありますか。また、硫黄を使った産業を考えられていますか。以上、質問いたします。

議長（西岡祐里さん） 観光経済部長。

観光経済部長（阿南俊晴君） お答えいたします。

別府市内に硫黄を使った産業でございますが、明礬温泉で入浴剤の湯の花を生産いたしております。別府の湯の花づくりはとても長い歴史を持っております。江戸時代には豊後明礬として全国に知られておりました。当時は、染め物の着色また血をとめるための傷薬として使われておりました。現在の湯の花づくりは、その豊後

明礬をつくる技術を受け継ぐもので、別府明礬温泉湯の花製造技術は、国の重要無形民俗文化財に指定をされているほどの貴重な技術でございます。今後、硫黄を使った産業の計画はということでございますが、今のところは計画はございません。

議長（西岡祐里さん） 市長。

市長（浜田 博君） 池田孝明議員の質問にお答えいたします。

先ほど部長がお答えしたように、現在別府における硫黄を活用する主な産業というのは、湯の花の生産ということでございます。池田議員よく研究されましたね。硫黄は化学工業においては大変重要な物質であると言われておりまして、現在私たちの生活にとってもなくてはならないものだと思っております。工業で用いられる硫黄のほとんどは、原油を精製する段階で生産されていて、今のところは十分に供給をされているようですが、石油も温泉もそうですが、同じように限りある地球の資源でございます。

現在、別府市では硫黄を活用した新たな産業の計画はありませんが、これからは資源を大切にすること、それから常に先を見越した活用法を考えるということが大切になってくると思っております。池田議員もこれからの勉強を重ねていく中で、別府ならではの硫黄の活用法を発見されたときには、ぜひいつでもご提言をいただきたいと思っております。貴重なご質問、ありがとうございました。

議長（西岡祐里さん） 27番。

27番議員（池田孝明君） ありがとうございました。これで質問を終わります。

議長（西岡祐里さん） 次に、23番議員、青山中学校の松本成葉さんの一般質問をお願いいたします。

[23番議員 松本成葉さん、登壇]

23番議員（松本成葉さん） 私は教育環境について質問があります。

今、青山中学校では本校舎改築工事が行われています。校舎が新しくなることは楽しみにしていますが、困っていることもあります。

1つは、授業中工事の音がうるさくて授業に集中できないという点です。時には先生や発表する人の声が聞こえないことがありました。

2つ目に移動教室のときに、外から行かなくてはならないという点です。これまでは、本校舎の廊下を歩いて体育館や理科室まで移動していました。しかし、今は

靴に履き替えて第1グラウンドを歩いて行きます。私は、生徒会副会長として全校集会の入場を指揮しなくてはなりません。今の状態で整列して私語なく入場するように徹底するのはむずかしいことです。

そこで質問ですが、もっと早く工事に取りかかり、夏休み中に進めることはできなかったのでしょうか。そうすれば2学期の学習環境がもっとよくなっていたはずで、今後、北校舎の改築も予定されており、私たちにとっては大きな問題です。ぜひお答えください。

議長（西岡祐里さん） 教育長。

教育長（郷司義明君） お答えいたします。

松本議員を初め青山中学校の皆さんには、大変今、本校舎の改築につきましてご迷惑をおかけいたしました。やっとどうにか完成をして引っ越しができるようになりました。

議員御指摘のように、本当に生徒の皆さん方にご迷惑がかからないように、夏休み中に工事を終えるのが一番いいわけでございます。ただ、こうした大規模改築については、別府市のお金だけではどうしてもまかなうことができません。国の方からも助けを求めなければならないわけです。そのためには、工事の設計の手続き等、国の方にしっかりと事前の準備をしなくてはなりません。そしてその結果、国の方からこれでよしという了解を得て工事にかかるわけでございます。そしてまたなお、今の本校舎には、電気や水道、配水などさまざまな設備がございます。事前にこれもきちっとしておかなければならなかったわけで、こういったところでずいぶん手間取ったわけでございます。御指摘のように、ぜひ北校舎の工事についてはこういったことがないように、そして議員のお願いでありますように、なるべく夏休み中に工事が終わるように頑張っていきたいと思っております。

議長（西岡祐里さん） 市長。

市長（浜田 博君） 松本成葉議員の質問にお答えいたします。

工事中の騒音で先生の声が聞こえなかったこと。大変ご迷惑をおかけしました。今、教育長が答弁したように、大規模な改修工事というのは、どうしても騒音が発生をしてしまいます。ある学校では、体育館で間仕切りをして授業をしたり、またはプレハブで授業をしたり、これまでもそういった経験があるわけですが、学校の

工事は原則的に夏休み中にやろうということで、一生懸命がんばってきましたが、事務手続きを少しでも早くするというのを今お願いをしております。工事期間をできるだけ短縮をして、授業のときに差し支えないようにできるだけ早く工事が完了するように、これからもしっかり努力をしたいと思います。ありがとうございました。

議長（西岡祐里さん） 23番。

23番議員（松本成葉さん） ありがとうございます。これで質問を終わります。

議長（西岡祐里さん） 次に、29番議員、鶴見台中学校の油布孝吉君の一般質問をお願いいたします。

[29番議員 油布孝吉君、登壇]

29番議員（油布孝吉君） 最近、別府市では地震が多いと思います。地震の揺れを感じると私は自分の家が壊れないかと心配になります。そして、地震に対してどのような対策がされているのだろうかということを考えます。災害が起こったとき、多くの人が気になるのは、家が壊れて住むところがなくなり、さらにその他の生活必需品までなくなったときの援助などではないでしょうか。

私が調べたところ、阪神淡路大震災のとき、45万世帯の住宅が全壊もしくは半壊するという被害認定があったそうですが、それに対して国からの援助は得られなかったということでした。そこで、善意で集められた義援金を分配したところ、1世帯あたり20万円程度にしかならなかったそうです。20万円では十分な安全やこれからの生活が確保できません。このことがあったせいか、その後には被災者の生活がもとに戻るよう支援する法律が作られ、また自治体による支援策が制定されたところもあります。

では、別府市では地震などの災害が起こったときには、どのようなことが行われているのでしょうか、教えてください。

議長（西岡祐里さん） 生活環境部長。

生活環境部長（中野義幸君） お答えいたします。

ことし、別府市では6月6日から6月10日にかけて群発地震が発生いたしております。家が壊れるなどの大きな被害はありませんでしたけれども、63回の揺れを観測する中で、不安を感じた市民の方が多かったと思っております。

別府市ではすぐに36カ所の避難所を開設いたしまして、960人の市民の方を収容し、水や毛布などを提供いたしております。仮に阪神淡路大震災のような大きな地震が発生した場合、とても別府市だけでは対応できないと考えております。そのため、近くの地方自治体や国、県、自衛隊、日本赤十字、その他多くの関係機関と協定を結びまして、災害復旧や被害者の支援に駆けつけてくれるということになっております。また、地震で家を失ったり、人的、物的な被害を受けた方につきましては、災害の規模に応じまして国から支援金が支給されるほか、別府市などから見舞金が支払われるということになっております。しかし、大きな災害が起きた場合、すべての市民の方をすぐに支援するということにつきましては、大変困難を感じております。市民の方々も災害に備えまして、日頃から懐中電灯やラジオ、さらには水や非常食料の備蓄などを準備されるとともに、避難場所につきまして日頃から家族の方とお話し合いをするということが大切なことだと考えております。

議長（西岡祐里さん） 市長。

市長（浜田 博君） 油布孝吉議員の質問にお答えします。

災害はどこでいつ起こるかわかりませんので、日頃から災害に対する備えは十分にしておかなければならないと思っております。別府市では、災害が起こったときに被害を少なくするために、防災に関する会議を開いたり、また防災訓練を行ったり、皆さんの町内でも防災訓練のお手伝いをしていただいたりしております。

また、先ほど部長がお答えしたように、大きな地震などがあって被害に遭われた方、また家が壊れたりした方に対しては、別府市からのお見舞金もお渡しする制度ができております。これからも災害に強い、安全で安心できるそういうまちをつくるために努力をしていきたいと考えております。貴重な質問、ありがとうございました。

議長（西岡祐里さん） 29番。

29番議員（油布孝吉君） ありがとうございました。これで質問を終わります。

議長（西岡祐里さん） 次に、17番議員、東山中学校の田原健太郎君の一般質問をお願いいたします。

[17番 田原健太郎君、登壇]

17番議員（田原健太郎君） ぼくは国立公園指定による新規住宅の建築不可に伴う東

山地区の過疎化について質問します。

別府に国立公園があるという、皆さんは不思議に思うかもしれません。皆さんが知っている城島や志高湖の周り、東山中学校校区は国立公園に指定されています。きょう、この会に参加していて、子ども宣言を発言する小野君は、ぼくと同じ東山中学校です。彼はことし、まちの方からバスで通わなければならなくなりました。彼の家にはことしからおじさんが帰ってくることになりました。そこで同じ敷地に住むために家を増築することになりました。でもそれはできませんでした。自然公園法という法律があり、国立公園内に建物を建てたり増改築をするためには許可が必要だと聞きました。許可が下りず小野君は下から通うようになりました。

ぼくも今、東山に住んでいます。このまま新しく家が建てられないと、東山地区の人口は減る一方です。教科書で習った過疎化が身近な問題としてあります。ぼくたちの学校の新入学生も増えません。東山地区に新しく住む人が来ないと、東山は観光だけの地域になってしまいます。ぼくたちも東山地区の不法投棄対策として看板を立てたりごみ拾いをしています。人がいなくなると不法投棄がますますひどくなるのではないかという心配もあります。また、東山地区には東山太鼓というお祭りで演奏する地区ごとの文化があります。私たちも練習して文化祭などで発表しています。ぼくたちはいつまでも受け継がれたらいいなと思っています。

自然や文化は別府の大切な財産です。東山地区が活性化するように過疎化に対する別府市の考えをお聞かせください。

議長（西岡祐里さん） 建設部長。

建設部長（宗野 隆君） お答えいたします。

ご質問のとおり、東山地区の一部は阿蘇くじゅう国立公園に含まれており、自然公園法という法律で規制を受けているため、公園内に住宅を建てたりする場合は手続きが必要となります。また、別府市のまちづくりは都市計画法という法律に基づき計画されており、東山地区のように田んぼや畑あるいは自然豊かな土地を利用して農林業等が営まれている区域を、市街化調整区域という名称で区分しています。この区域内では、自然環境の保護や災害を防止するために、都市化が進むような施設の建設を抑えています。農林業の仕事をされている人や、新たにそれらを始めようとする人の住宅や仕事用の施設は建てることができます。

田原議員ご質問の住宅の建築に当たっては、これらの法律の規制を受ける部分が
あったため、むずかしかったのではないかと思います。

議長（西岡祐里さん） 市長。

市長（浜田 博君） 田原健太郎議員の質問にお答えいたします。

先ほど建設部長が答弁をしたように、東山地区には新たに農業を始めようとする
住宅また仕事に関係した施設というのは建てることのできるわけです。自然豊かな
東山地区に新しく住む人が増えてくれば、田原議員が心配されている東山地区の人
口さらには生徒数の減少も解決されるのではないかと思います。

全国的にも今、過疎化の問題は大変深刻な問題となっています。別府市におきま
しても過疎化対策については前向きに取り組んでいきたいと考えております。田原
議員におきましても、今後も東山地区を思う気持ちを大切にしていきたいと思
っております。貴重な質問、ありがとうございました。

議長（西岡祐里さん） 17番。

17番議員（田原健太郎君） ありがとうございました。これで質問を終わります。

議長（西岡祐里さん） 次に、8番議員、鶴見小学校の高木渉美さんの一般質問をお願
いいたします。

[8番議員 高木渉美さん、登壇]

8番議員（高木渉美さん） 今、社会問題となっている高齢者問題について質問します。

今、医療費や年金が問題となっています。この問題はどこから起こっているの
でしょうか。私が調べた結果、1945年には9.4人の若者に老人1人の割合で支
えていましたが、2000年には3.7人に1人の割合になっていました。55年
の間に3分の1までに減っています。このままいけば2025年には2人の若者に
老人1人の割合になってしまいます。別府市は特に高齢者の多いまちだと聞いてい
ます。このままでは支える若者もとても大変で、支えられる老人も不安で、楽しく
生活できません。なので、2つ提案があります。

1つ目は老人ホームを学校の中につくってはどうかということです。そうすると、
子どもと高齢者の方のコミュニケーションが取れて、高齢者の方に生きる気力が湧
いてくると思います。

2つ目は高齢者にも働く場をもっとつくった方がいいと思います。そうすれば生

きがいが増えるのではないのでしょうか。

この2点について、別府市はどのように高齢者のためのまちづくりを進めているか、教えてください。

議長（西岡祐里さん） 福祉保健部長。

福祉保健部長（宮津健一君） お答えをいたします。

最初に、老人ホームを学校の中につくったらどうかという高木議員さんのご質問です。確かに老人ホームを学校の中につくりますと、子どもさんと高齢者の交流が図られます。また、高齢者の方たちの生きがい対策にもなるかと思っております。ちょっと調べてみましたら、都会では学校の敷地の面積が狭いために、土地を有効利用し、1、2階部分を老人ホーム、3階以上を学校というふうにそうした建物もあるようでございます。現在、別府市では学校の中に老人ホームをつくる計画はございませんが、将来はたとえば学校の隣にできる可能性はあると思っております。

次に、高齢者にも働く場所をつくってほしいとのご質問でございますが、急速に高齢者が増えております。また、逆に生まれる子どもさんの数が減っております。いわゆる少子高齢化が進んでおります。年金を支える世代が減っていくということで、年金をもらえる年齢が60歳から段階的に65歳までに引き上げられました。そのために平成18年4月1日から国が事業主や会社に対して、退職後も年金がもらえるまで引き続いて働ける職場にすることなどを法律で義務づけ、国を挙げて今、高齢者の働く場所の確保に一生懸命取り組んでおります。

議長（西岡祐里さん） 市長。

市長（浜田 博君） 高木渉美議員の質問にお答えをいたします。

65歳以上の方を高齢者というふうに呼んでいるんですが、日本は全国平均で5人に1人が高齢者となって、人口に対する高齢者の占める割合は世界一となっております。ちなみに別府市の場合は、高齢化率がもう26%を超えました。もう4人に1人が高齢者という状況で、これも全国平均を上回っているという状況でございます。また、日本人の平均寿命も男性が78.56歳、女性が85.52歳となっております。今後さらにその寿命は延びてくるのではないかと予想されております。

このような状況の中で、高木議員の高齢者に対する生きる気力を湧かせる対策と

して、学校内に老人ホームということは、本当に考えさせられるといいますが、非常にすばらしい発想だなと、今感銘をいたしたところでございます。そういう意味で将来的にはそういった計画をしなくてはいけないのかなと、今思っているところでございます。貴重な質問、ありがとうございました。

議長（西岡祐里さん） 8番。

8番議員（高木渉美さん） ありがとうございました。老人が住みよいまちになるようにこれからも気をつけてほしいと思います。これで質問を終わります。

議長（西岡祐里さん） 次に、13番議員、春木川小学校の富松拓朗君の一般質問をお願いいたします。

[13番議員 富松拓朗君、登壇]

13番議員（富松拓朗君） ことしぼくたちの学校にバングラデシュから、ベンガル語を話す友だちが入学してきました。最初は言葉が通じるか心配だったけれども、5月から通訳さんがついてくれることになり、授業中も通訳してくれることになりました。しかし、1学期週3回、9月から週2回と来てくれていた通訳さんも、11月からもういなくなりました。本人も少しずつ日本語に慣れてきていますが、けんかになったときにうまく自分の気持ちが伝えられないことや、行事のときに必要なものをうちの人に伝えられない人が多いそうです。その友だちのお母さんもまだ日本語に慣れていないので、お知らせのプリントで困ることが多いそうです。国際観光温泉文化都市を目指す別府市として、外国人にやさしいまちづくりが大切だと思います。ですから、学校でもせめて1年間は通訳さんをつけて、安心して勉強できる環境づくりをすることができないのかお聞かせください。

また、郵便局の窓口で働いている人の話では、窓口に来る外国人の多くが、自分で辞書を3つも持ち歩き、まず自国の言葉から英語に直して話しかけるそうです。もちろん窓口の人でも英語で話す場面もありますが、むずかしい言葉になると伝わらないことが多いそうです。ですから、外国人のための相談窓口開設など、別府市の外国人に対する支援の取り組みについてをお聞かせください。

議長（西岡祐里さん） 教育長。

教育長（郷司義明君） お答えいたします。

別府市には外国の方が今たくさん生活をしております。そして幼稚園や小学校、

中学校に外国からのお友だちも学んでおります。今、富松議員ご指摘のように、言葉がわからなくて大変不自由をしていると思います。そういったお友だちに一日でも早く学校生活に慣れ、言葉に慣れるように言葉のわかる大学生を中心にしながら、教育相談員という形で学校に支援をしております。春木川小学校にもその支援の大学生が行っていたと思います。今、お話がありましたように11月で終わりになったわけですが、まだほかの学校にもたくさんそういったお友だちがいるために、春木川小学校の方にもっと長くその相談員にいていただきたかったわけですが、そういったことで今、ほかの学校に行ってもらっております。

富松議員御指摘のように、これからもできるだけ長くそのお友だちがいろんな意味で慣れるように、これからも相談員の方にがんばっていただくように、教育委員会でもこれからしっかりと考えていきたいと思っているところでございます。

観光経済部長（阿南俊晴君） お答えをいたします。

外国人の方の相談につきましては、現在、市役所の4階にあります国際交流室が担当をいたしております。英語、中国語また韓国語で対応をいたしております。

また、外国人に対する支援として英語、中国語、韓国語版の生活情報ガイドブックを作成しまして、無料で配布をいたしておりますし、その他ご要望があれば市役所の窓口での相談また通訳、また毎週火曜日の午後、日本語講座の開催、また月に1度であります、日本の家庭料理をつくるサークル、こういう部分の活動も行っております。

議長（西岡祐里さん） 市長。

市長（浜田 博君） 富松拓朗議員の質問にお答えいたします。

別府市は、平成12年に国際交流都市となることを宣言をいたしまして、外国からの観光客また留学生を温かく受け入れましょうということで今努めているところでございます。ご案内のように留学生人口も3千人を超えております。そして82カ国から来て、国際観光温泉文化都市として別府市に住んでいただいて、勉強をしていただいているという状況で、またそういう職員の皆さんとか学生さんも結婚されて、子どもさんが今、保育園とか幼稚園にもたくさん通うようになりました。外国から来た子どもたちは慣れない日本での生活で、多くの不安を抱えているのではないかなと思っております。バングラデシュから来た友だちのことを心配する富松

議員のやさしい心、とてもうれしく思います。

先ほど教育長がお答えしましたように、別府市としましては外国から来た子どもたちが安心して学校生活を送れるように、一人でも多くそして少しでも長く教育相談員をつけていきたいと考えております。しかし、それだけで外国から来た子どもたちが学校生活に慣れるわけではありません。何よりも大切なのは、周りの子どもたちの協力です。そういう意味で富松議員や他の議員の皆さんにも外国から来た友だちに対して、早く日本の学校になれるようにやさしく手助けをしていただいたり、また外国のことを教えてもらったりして、一層仲よくしていただきたいなと思っております。貴重な質問、ありがとうございました。

議長（西岡祐里さん） 13番。

13番議員（富松拓朗君） ありがとうございました。これでぼくの質問を終わります。

議長（西岡祐里さん） 次に、4番議員、南小学校の笠置昂也君の一般質問をお願いいたします。

なお、笠置君から市長さんほかに説明のため資料を配付したいということですので、職員の方をお願いいたします。（資料配付）

[4番議員 笠置昂也君、登壇]

4番議員（笠置昂也君） 別府の名物料理について質問します。

ぼくのうちでは、家族旅行に出かけるとき、父母や祖父母からの「あの地では何がおいしい」との会話から旅行先が決まることがあります。観光地別府の名物料理は何なのかを考えてみましたが、考えても考えてもこれというものが浮かびませんでした。

そこで、ぼく以外の人たちがどう思っているのか知りたくなり、学校の友だちや先生、近所の人たち100人に別府の名物料理は何ですかと聞いてみました。するとその結果は次のとおりになりました。

第1位は「ない」、「知らない」が29人。第2位は「とり天」が12人。同じく第2位は「温泉たまご。プリン」でした。第3位は「やせうま」の11人でした。そのほかにカボス、しいたけ、だんご汁、豊後牛、地獄蒸し、ちりめん、関アジ、関サバとなりました。

名物料理が「ない」、「知らない」と答えた人が全体の約3割もいたことにはび

っくりしました。本当は別府には名物料理と言えるものがないのではないかと思います。

浜田市長さん、別府の名物料理は何ですか、教えてください。もしあるのならもっと宣伝をして、別府の名物料理を広めてください。ないのであれば、研究して素晴らしい名物料理をつくってください。そして観光客をもっとたくさん呼んでください。ほくたちの学校の給食でも別府の名物料理が食べられることを楽しみにしています。

議長（西岡祐里さん） 観光経済部長。

観光経済部長（阿南俊晴君） お答えいたします。

別府には名物料理がないのではないかとのご指摘でございます。別府はご承知のとおり大分県を代表する観光地として発展をしております。そのため、県内のいろんな食材また料理をお客様に提供いたしております。たとえば全国的に有名な佐賀関の関アジ、関サバ、また日出の城下カレー等で、別府の旅館・ホテルにおいてもお客様にお出しをしておりますが、これが余り目立っていないのではないかとこのように思っております。

別府ならではの料理と言え、地獄蒸し料理ではないかと思っております。温泉の噴気で一気に食材を蒸し上げる料理は、他の観光地では余り見ることができない別府を代表する料理と思っております。また、この料理法から地獄蒸しプリンや豚まん等、さまざまな地獄蒸し料理が生まれてきております。

議長（西岡祐里さん） 市長。

市長（浜田 博君） 笠置昂也議員の質問にお答えいたします。

笠置議員が言われますように、旅行先での楽しみというのは食事ですね。その土地の食べ物がどんなものがあるのか、これが大きな割合を占めていると思います。その料理を食べるために旅行に行くということもよく聞きます。別府は昔から観光客が訪れていたということから、多くの飲食店が立ち並んでおりました。それぞれの腕をふるってきたと思いますが、そうした歴史ある飲食店が今も数多く残っているわけで、その味を引き継いでいきたいと思っております。

たとえば「とり天」ですね。これは大分とホットな戦いをやっておりますが、まさにこれは別府発祥の食べ物でございます、今では各家庭で普通に食べられてお

りますから、お客さんが来たときに「とり天はどこで食べられますか」とよく聞かれます。そのくらい「とり天」というのは、別府が発祥の地だと。このことは間違いないと思いますので、一緒に宣伝をしていただきたいなと思っております。

それから今、部長が答弁したように地獄蒸し料理、これは別府ならではのです。日本一の別府温泉ならではの地獄蒸し料理です。鉄輪地区で今それをやっております。私も鉄輪に生まれて、鉄輪に育ち、今も鉄輪に住んでいますから、私の子どもころは私の家の中にも地獄がありまして、その地獄蒸しでお芋、とうもろこし、いろんなものを子どもころから食べました。もう5分でぱっと出来上がるんです。野菜などのほうれん草もぱっと出来上がります。今、温泉たまごとかプリンとか豚まんとか、そういったものが今名物となって、お客さんに喜んでいただいております。だから地獄蒸し料理と言ったら別府しかありません。これは堂々と宣伝をしていただくといいのではないかなと思います。別府ならではの味を持っていきたいとこのように考えているところでございます。

「別府にも名物料理を」という笠置議員の気持ちを大変うれしく思います。ぱっと答えられない皆さんが多いと思いますので、地獄蒸し料理、とり天、このようなことをしっかり言って、これをしっかり宣伝をしていきたいなと思っておりますのでございます。

食の観光というのは、とても重要なことだと思っております。そういう意味でしっかりこれからも食文化の問題に取り組んでいきたいなと考えております。貴重な質問、ありがとうございました。

議長（西岡祐里さん） 4番。

4番議員（笠置昂也君） 別府の名物料理が多くの人に喜ばれることを期待しています。

議長（西岡祐里さん） 次に、6番議員、青山小学校の中島康貴の一般質問をお願いいたします。

[6番議員 中島康貴君、登壇]

6番（中島康貴君） 別府の商店街の活性化について。別府市立青山小学校6年・中島康貴

ぼくは、別府の商店街の活性化について質問します。

時々、車で別府の駅前を通るときに商店街の様子が見えます。商店街はシャッタ

ーが降りている店が多く、暗い雰囲気があるので、活気がなく元気のないまちに見えます。

そこで、別府のまちの商店街が明るくにぎやかで、人がたくさん集まるようにするにはどうすればよいか考えてみました。

ぼくはサッカーをしているので、スポーツ専門店などがあるといいと思います。今、商店街にもスポーツ店があるので、時々サッカー用品を買いに行ったりします。大分までいつも行くのは大変なので、できると便利でいいなと思います。

そのほかにも家族で楽しめるようなバイキングなどのお店ができて楽しいなと思います。そのほかにも子どもたちも楽しめるような遊びの広場や、楽しいイベント、プレゼントなどがあるといいと思います。

そこで質問ですが、これから先、商店街に今よりも多くのお客さんが来てくれるような取り組みとして、どのような対策を考えておられますか、お聞かせください。

議長（西岡祐里さん） 観光経済部長。

観光経済部長（阿南俊晴君） お答えいたします。

商店街にお客様が来てくれるような取り組みということでございますが、お客様が行ってみたいと思えるような魅力ある商店街でなければなりません。お客様が何を望んでいるのか、またそれを知る必要があると考えております。

現在、駅前や周辺商店街の皆さんと一緒に、市民また観光客の方々のご協力もいただきながらアンケート調査も行っております。今、中島議員のご提案のスポーツ専門店等、大変魅力的なご提案だと思っております。アンケートや市民の皆様方の声をもとに商店街の皆様方と話し合い、新たな魅力ある計画を今後つくっていきたいと考えております。

議長（西岡祐里さん） 市長。

市長（浜田 博君） 中島康貴議員の質問にお答えいたします。

商店街の活性化というのは、別府市にとっても大変大きな課題としてとらえております。現在、別府市では駅前さらにはその周辺を活性化するための計画を今実施をしております。駅前もきれいになりました。駅もきれいになりました。今、駅の西口も整備をしております。24時間バリアフリーのトイレも2月には完成をする予定でございます。

そういう意味で駅を中心に活気ある元気なまちづくりに今取り組んでいるところでございまして、特にＪＲ別府駅は観光客をお迎えする別府の表玄関でございますし、またその駅前の商店街につきましてもお客様をお迎えする別府市の顔だと思っております。お客様をいつも笑顔で迎えらるるそういう商店街に、また別府市の顔というふうにするためにも商店街の活性化は必要でございます。お客さんが行ってみたいと思うような魅力ある商店街にシなくてはならないと思っております。

今、別府市全体の中心市街地の活性化のための基本計画を国に申請をいたしておりますから、これが認定をいただきますと、国の補助をいただきながら、商店街の中に足湯をつくったり、また高齢者の皆さんが座るベンチを置いたり、いろんな形でそこに行ってみたいなと思えるようなそういうまちづくりに一緒にがんばっていきなさいと思います。これからの別府市さらには商店街の皆さんの取り組みをぜひ楽しみにしていただきたいと思っております。貴重な質問、ありがとうございました。

議長（西岡祐里さん） 6番。

6番（中島康貴君） ありがとうございます。ぼくも別府の商店街の活性化について取り組んでいきたいと思っております。これで質問を終わります。

議長（西岡祐里さん） 以上で、一般質問を終わります。

休憩いたします。

午前10時38分 休憩

午前10時50分 再開

議長（西岡祐里さん） 再開いたします。

日程第5により、提言の発表を行います。発表者は12名です。提言順位により、発表をお願いいたします。

最初に、3番議員、北小学校の山下真奈さんに提言の発表をお願いいたします。

[3番議員 山下真奈さん、登壇]

3番議員（山下真奈さん） 私は、別府市の交通事故が少なくなるための提言をします。

ある朝、担任の先生から、最近交通事故が増えているので十分に気をつけるようにという注意がありました。

そこで、本当に交通事故が増えているかどうか、インターネットなどで調べてみ

ました。すると、小中学生が事故に巻き込まれている件数は増えているということがわかりました。私も歩行者専用道路と自動車専用道路が分かれていない道で事故に遭いそうになったことがありました。私の身近な友だちなども、歩行中に危ない経験をした人は少なくありません。そこで提言します。

別府市全体に歩行者専用道路を増やしてはどうでしょうか。全体が無理ならば、各学校の通学路だけでも歩行者専用道路を増やしてほしいと思います。歩行者専用道路があると安心して通学できますし、交通事故も減ると思います。これからも私たちが安全に気持ちよく過ごせる別府にしていきたいと思います。

これで私の提言を終わります。

議長（西岡祐里さん） 市長。

市長（浜田 博君） 山下真奈議員の提言に対しまして、お答えをしたいと思います。

私も別府のまちが大好きでございまして、交通事故のない安全で安心して過ごせるまちにしたいという思いは、山下議員と全く同じでございます。

私は、ことしの4月の市長選挙で市民の皆さんとの約束事の一つとして、安全で安心のまちづくりということを目指すことを発表させていただきました。ご提言にありました各小学校の通学路に歩行者専用道路を増やすということにつきましては、学校関係者または警察署、自治会の方々とよく相談をして、小中学生の皆さんが安全、安心な道路整備をしっかりと進めていきたいなどこのように思っております。ご提言ありがとうございました。

議長（西岡祐里さん） 次に、30番議員、鶴見台中学校の吉野葵さんに提言の発表をお願いいたします。

[30番議員 吉野葵さん、登壇]

30番議員（吉野 葵さん） 最近、ニュースで学生の学力低下やいじめの問題がよく取り上げられています。私はその原因は生徒一人一人にあるように感じています。しかし、1クラス40人という学級の人数の多さにも問題があるのではないかと思います。なぜならば1人の先生が自分の学級にいる生徒全員を見渡すことはなかなかできないと思うし、先生と一人一人の学級にいる生徒がじっくり話をすることができないと思うからです。

そこで私は、1クラスの人数をもっと減らすことを提案します。そうすれば生徒

も授業にもっと集中できると思うし、わからないところも先生に気軽に聞きに行くことができるようになると思います。また、人数が少ないことによってじっくり私たちの相談に乗ってもらうこともできると思うし、先生も一人一人に目が行き届くので、トラブルも減ると思います。私たちが安心して楽しく通える学校になっていくといいと思います。以上で終わります。

議長（西岡祐里さん） 市長。

市長（浜田 博君） 吉野葵議員の提言にお答えをしたいと思います。

別府市では4年前から小学校1年生を30人学級に、今は2年生まで30人以下学級ということで、1クラスの児童の数が少なくなるようにという思いの中で進めています。今度は中学1年生も何とか30人学級にできないかなということで、今県知事の方で予算要求をさせていただいておりますから、そういう意味で1クラスの児童の数が少なくなってほしい。これは小学校に入ったばかりの児童の皆さんが早く学校生活に慣れて、勉強がよくわかるように、また困ったことをすぐ先生に相談ができるようにするためのものがございます。今後も小中学校の児童生徒の皆さんが、もっと授業に集中できるように、また先生方が一人一人に行き届いたきめ細かな指導ができるように、1クラスの人数を少なくすることをこれまでと同じように、県や国の方にしっかりと働きかけていきたいなと思っております。

吉野議員を初め、ほかの議員の皆さんも友だちと仲良く助け合って、支え合うことができる学校または学級づくりに励んでいただいて、将来りっぱな大人になっていただいて、この別府市を支えていただきたいなと思っております。貴重な提言、ありがとうございました。

議長（西岡祐里さん） 次に、26番議員、中部中学校の亀川美津希さんに提言の発表をお願いいたします。

[26番議員 亀川美津希さん、登壇]

26番議員（亀川美津希さん） 私の提言は別府市の街灯についてです。

私が住んでいる緑丘町は、住宅地の中に狭い道がたくさんあり、標識のない交差点も少なくありません。まだ明るいうちは問題もなく歩けるのですが、暗くなるにつれ見通しも悪くなります。その原因の1つは街灯の少なさだと思うのです。現在の社会では、毎日のように不審者情報がテレビや新聞などで報道されています。高

校生や私たち中学生も部活動などで暗くなって帰ることも多いです。私も部活の後、急いで帰る準備をしても外は暗くなって困ることがよくありました。そんなとき、もっと明るい街灯があったらいいなといつも思っていました。そして、街灯を増やし明るくすることは、いろんな犯罪を防ぐことにつながると思います。特に学校の近くの狭い道などには多く必要だと感じます。これからも住みやすい別府市であってほしいと思います。

これで私の提言を終わります。

議長（西岡祐里さん） 市長。

市長（浜田 博君） 亀川美津希議員の提言にお答えいたします。

現在、別府市内の市道の本数は2,476本です。長さにすると約633キロメートルとなります。そしてその道路には約9,200基の街灯が設置をされております。街灯を設置するには1日あたりの自動車や歩行者の交通量がまず大事です。それと幼稚園、小学校との位置の関係、交通事故が発生する恐れがある道路であることなど、さまざまな条件を考えていかなければなりません。

平成17年度には122基、18年度は70基を設置をしました。これからも毎年100基前後の街灯を計画的に設置をして、亀川議員のご提言に沿うように、安全で住みやすい別府市にしていきたいなと思っております。提言をありがとうございました。

議長（西岡祐里さん） 次に、9番議員、亀川小学校の垣迫萌さんに提言の発表をお願いいたします。

[9番議員 垣迫 萌さん、登壇]

9番議員（垣迫 萌さん） リサイクルとごみの減量化について。亀川小学校・垣迫萌。

私は日頃から環境にやさしいことをしたいと心がけています。私の家で実践していることの中から2つのことを紹介します。

1つ目は手づくりごみ袋です。ごみ箱にかけるビニール袋のかわりに新聞紙で袋をつくっています。

2つ目は牛乳パックのリサイクルです。空になった牛乳パックは捨てずに、小物入れをつくったり、料理のときのまな板がわりに利用したりしています。有害なダイオキシンやごみの量を少しでも減らすためです。

この間、大分市に住んでいる母の友だちからごみの分別について聞きました。4月から今までの8分別から12分別に変わったそうです。もっと詳しく調べてみると、燃えないごみが乾電池、ピン、プラスチック、電球などに区別され、別府と比べるとさらに細かく分類されています。別府市でももっとリサイクルを進めることができたらいいなと思いました。

そこで、別府市にお願いがあります。分別した資源物の処理を行う工場をつくり、ごみの再利用が進むようにしてはどうでしょうか。その工場には無料で入場できるリサイクル体験工房などもつくと、別府市民一人一人の意識ももっと高まると思います。緑や海など自然豊かな別府市の環境を守るために、ぜひよろしく願います。

議長（西岡祐里さん） 市長。

市長（浜田 博君） 垣迫萌議員のご提言にお答えいたします。

垣迫議員におかれましては、常日頃からご家庭でごみ減量に取り組んでいただいて、本当にありがとうございます。

ご提言をいただきました資源物の処理を行う工場の建設については、建設する場所の問題また費用の問題がありますので、これから資源物をどのように処理をしていくのか、このことを市民の皆さんと一緒に考えていくことが大切ではないかなと思っております。

ごみ減量の問題は、垣迫議員が取り組んでいるように、身近で無理なくできることから始めるということが大事だと思います。それを続けていくことが大切ではないかなと思っております。貴重な提言、ありがとうございました。

議長（西岡祐里さん） 次に、11番議員、朝日小学校の近藤千樹君に提言の発表をお願いいたします。

[11番議員 近藤千樹君、登壇]

11番議員（近藤千樹君） ぼくは子どもが主役の市やまちが活気づくイベントについて提言をします。

ぼくが通っている朝日小学校では、ことし「歩き出せ最高の笑顔作るんだ 一人一人の力あわせて」というスローガンに向かって、子どもが主役のイベントを児童会や委員会で考え、実行しています。のど自慢大会や朝小タウンなどのイベントで

学校に笑顔が増え、活気が生まれ、楽しくなってきたなと思っています。でも、別府市のイベントには大人向けのものが多く、子どもたちは大人についていき、大人が用意してくれたもので楽しむことしかありません。

そこで、子どもが企画運営をし、子どもが主役になって楽しみ、学校を超えて楽しくつながりあえるイベントを4月の温泉祭り、秋のオンパクで行うことを提案します。企画は、各小中学校の代表が集まって考え、運営は4年生以上の希望者を募集して行います。

イベントの例をぼくたち朝日小児童会では2つ考えました。

1つは温泉祭りでの子どものだ自慢大会です。参加賞には地獄蒸しのたまごやお芋にすると、別府らしくてよいと思います。

もう1つは、アリーナでの「べっぴんあそび村」です。オンパクの一つとして子どもたちが遊びや手づくりゲームの出店を出すのです。泉都（セント）を活用してもおもしろいと思います。いろんな学年や学校の子どもたちがつながり、笑顔になれば、市やまちも活気づくと思います。よろしくお願いします。

これでぼくの提言を終わります。

議長（西岡祐里さん） 市長。

市長（浜田 博君） 近藤千樹議員の提言にお答えしたいと思います。

近藤議員のご提言、本当に感動いたしました。お祭りやイベントというものは、行う上でとても大切なこと、また企画運営する人たちが楽しんで企画運営をしないと、また参加している人もおもしろくない、これが原則です。朝日小学校の児童会の皆さんが笑いを増やす、笑顔を増やすイベントに積極的に取り組んでいることに、本当に感動いたしました。

ご提言の子どものだ自慢大会とか、また「べっぴんあそび村」を実施するという、これは地域や学校の方々の協力がなくなかなかできません。多くの人の協力が必要だと思います。日頃から、普段から地域の活動に積極的に参加をする、そして地域とかかわっていくことがイベントの実現に向けてそれにつながっていくのではないかなという思いがいたします。

別府市でもいろいろなイベントやにぎわいをつくるためにいろいろ企画をしております。まずそこに市民の皆さんも参加をすること。参加をしたら、「ああ、楽し

いいイベントだな。また来年もこれには出よう」と思えるようなイベントの企画がないと、なかなか続かない。そういう意味で企画運営する人が楽しんで、まずやること。そして参加した人が「ああ、楽しかったな」と思えるような、これも「ONSEN ツーリズム」につながるわけです。笑顔で交流する、「楽しかったね。また来年会おうね」と、こうして別れるようなイベント、そういうものをしっかりと企画をしていきたい。すばらしい提言をいただきました。貴重な提言を本当にありがとうございました。

議長（西岡祐里さん） ここで、副議長の奥迫胡桃さんと交代します。

[議長交代、副議長・奥迫胡桃さん、議長席に着く]

副議長（奥迫胡桃さん） 次に、7番議員、南立石小学校の小畑太哉君に提言の発表をお願いいたします。

[7番議員 小畑太哉君、登壇]

7番議員（小畑太哉君） ぼくは別府の温泉について提言します。

ぼくたちの住んでいるまち別府は自然が豊かで温泉にも恵まれています。その温泉にはいろいろな成分が含まれているので、違った感じの温泉をいろいろ楽しむことができます。でも、温泉の成分が強すぎたり、湯船までの階段がたくさんあったりして、アレルギーのある人や高齢者の方には入りにくい温泉もあります。

そこで、別府の温泉がどんな人にも安心して入れるような、また来々となるような温泉にするために、次の3つを改善してください。

- 1、脱衣場から湯船までの移動がしやすいように手すりやスロープをつける。
- 2、敏感肌の人にも入れるように、きつさを抑えた湯船をつくる。
- 3、外国の方も安心して入れるように、外国語で書かれた詳しい案内板を置く。

この3つについて、よろしくをお願いします。

副議長（奥迫胡桃さん） 市長。

市長（浜田 博君） 小畑太哉議員の提言にお答えいたします。

まず手すりやスロープの設置についてですが、市営の浜田温泉、堀田温泉は車いすの方でもそのまま入浴できるようなバリアフリーの設計になっております。すぐにすべての施設にスロープを設置することは、非常にむずかしい問題がありますが、高齢者の方でも安心して入浴していただけるように、温泉施設の建替えも計画的に

やっております。新しくつくる温泉については、熱いお湯とぬるいお湯にちゃんと分けたり、それからスロープをつくって車いすの方も入れるようなそういう温泉にしたいなと思っております。

それから、外国語の案内板についてでございますが、現在ほとんどの市営温泉には英語と韓国語、中国語の3カ国語の案内板を設置をしております。今後も別府を訪れる外国人の方が安心して温泉に入れるように、必要な案内板を設置をしていきたいと考えております。貴重な提言、ありがとうございました。

副議長（奥迫胡桃さん） 次に、2番議員、境川小学校の首藤弘樹君に提言の発表をお願いいたします。

[2番議員 首藤弘樹君、登壇]

2番議員（首藤弘樹君） ぼくは、別府市立図書館・学校図書について提言をします。

ぼくは本が好きです。母に別府市立図書館に連れて行ってもらいます。ぼくはそのときに困ることが3つあります。

1つは駐車場が少なく、車がとめられないこと。2つ目は本の冊数が少なく、借りたいと思う本がなかなか見つからないこと。そして3つ目は、予約ができないので、読みたい本を手に入れるまでに時間がかかることです。

そこで、ほかのいくつかの市立図書館について調べてみました。ほとんどのところは予約ができます。駐車場は別府は14台ですが、多いところで40台分もあると電話で教えてくれました。本の数も多いところは、市民1人あたり6冊もあるのに、別府市は0.8冊しかありません。

ここでぼくからのお願いです。学校の図書館もコンピューター化して、学校からでも家からでも別府市立図書館のホームページで本の検索、予約ができるようにしてほしいです。

さらに、移動図書館で学校まで持ってきてくれるようになれば、家の人に連れて行ってもらうなくても本を借りることができます。図書館の駐車場が少なくても、図書館を利用することができると思うのです。

また、ことしから小学校にも司書の先生が来ています。本を探す手伝いをしてくれるし、おすすめの本を紹介してくれます。いつもいてくれるといいなと思います。たくさんの方が図書館を利用して、たくさんの本を読むことができる別府を、いつ

か自慢できる日がくればいいなと思います。

これでぼくの提言を終わります。

副議長（奥迫胡桃さん） 市長。

市長（浜田 博君） 首藤弘樹議員の提言にお答えいたします。

市立図書館のコンピューター化につきましては、昨年から取り組んでおります。ことしの4月には市立図書館にあるほぼすべての本の登録が済みます。また、来年の4月から本の予約が市立図書館でもできるようになります。さらに、今後学校からでも家からでも本の予約ができるように計画を今しています。

市立図書館の本が少ないというご指摘がありましたが、平成17年度までは1年間の図書の購入量が約4,500冊くらいだったんですが、平成18年度は倍の約9千冊を購入をいたしました。その中で特に児童向けの図書を充実するように、今、本を選んでいるところでございます。これからも本の数を増やししながら、学校の児童生徒や市民の皆さんが使いやすい市立図書館にしていきたいと考えております。貴重な提言、ありがとうございました。

副議長（奥迫胡桃さん） 次に、12番議員、石垣小学校の田口真希さんに提言の発表をお願いいたします。

[12番議員 田口真希さん、登壇]

12番議員（田口真希さん） 世界一の温泉を活用して。石垣小学校・田口真希。

「別府に住んでいるから、毎日温泉に入れていいね」と、親戚の人から言われたことがあります。実際は、別府に住んでいるからといって、毎日温泉に親しんでいるとは限りません。別府に住むだけもが温泉の湧出量が世界一ということを実感できるようなまちづくりができればいいと思います。

たとえば、街角や学校に足湯や手湯のできる場所をつくり、人が自然と集まり、人々の心が通い合うような施設ができるといいなと思います。別府は地震が多いので、そういう災害があったときにも、普段の心のふれあいが団結力につながると思います。友だちともそんな施設で放課後に遊べたら楽しそうです。ほかの地域にはない温泉というものを活用して、温泉のような温かい心の人たちがいっぱい学校、そして別府にしたいです。

副議長（奥迫胡桃さん） 市長。

市長（浜田 博君） 田口真希議員の提言にお答えしたいと思います。

田口議員のご提言、私たちも全く同じ考えでございます。それが「ONSENツーリズム」のまちづくりのすべてに通じています。住んでよかったな、そして訪れてよかったなというまちづくりを別府市は目指しているということでございます。

特に温泉の問題は、湧出量も泉源の数も泉質も日本一なんです。そのためにその温泉をどう健康と保養といったものに生かしていくのか。それから泉質の効能、こういうものに効きますよという表示をしっかりとしながら、本物の温泉ですよということを宣伝をしていきたいなと思っているところでございます。

特にまた市民の皆さんの憩いの場、そして心のふれあいの場、子どもたちの遊び場として、街角また学校に足湯とか手湯をつくるという具体的な提案、本当に素晴らしい考えだと思います。

今、鉄輪には全国にもない足蒸しという、蒸気で足を蒸すというものも無料ですから、大変人気でたくさんの方が並んでおります。それから駅前の手湯もちゃんと今、熱いお湯が出ておりますから、観光客の皆さんが「別府の温泉だ」と喜んで感動していただいております。そういう意味でいろんなところに足湯や手湯をつくって、具体的にそういった提案をしていただいたことに報いるためにもがんばっていきたいと考えているところです。貴重な提言、ありがとうございました。

副議長（奥迫胡桃さん） 次に、1番議員、野口小学校の塩崎芳野さんに提言の発表をお願いいたします。

[1番議員 塩崎芳野さん、登壇]

1番議員（塩崎芳野さん） 私は、野口小学校の校庭について提言をします。

私たちの学校の校庭は雨に弱く、すぐに川のようになり水たまりができてしまいます。そのため、運動会の日も朝6時からおうちの方々と先生たちが土を入れたり、水を吸い取ったりしました。しかし、その後また雨が降り出し、水を吸い取ったり、土を入れたところもまた水たまりができてしまい、学校に山のようにあった土や砂場の砂もすべて使い果たしました。雨が降った後、晴れても川や水たまりができていて、校庭で遊ぶことができなくなります。校庭で遊ばない人は教室にいますが、私たち6年生は残りわずかな小学校生活です。勉強や修学旅行のことだけではなく、校庭で低学年や同じ学年の人たちと遊ぶ思い出もたくさんつくりたいので、雨が降

った後でも外に出て遊べるように、私たちの校庭を雨に強く、川や水たまりができていくようにしてほしいと思っています。

これで私の提言を終わります。

副議長（奥迫胡桃さん） 市長。

市長（浜田 博君） 塩崎芳野議員の提言にお答えいたします。

校庭が雨に弱いために、塩崎議員を初め皆さんが大変困っているということがよくわかりました。野口小学校の校庭を雨に強い校庭にするためには、多くの費用とまた時間も必要だと思います。皆さんが毎日友だちと遊び、ふれあい、楽しい時間が生まれる校庭です。急に使えなくなったり、長い間使えなくなったりしないように、どうしたらいいのかなと、このことを真剣に考えて、なるべく皆さんが困らないようにしていきたいと考えております。運動場のほかにも校舎や体育館、そういうこともすべて考えながらよくしていきたいと、このように考えておりますので、また何か気がついたことがあったらいつでも提言をしてください。ありがとうございました。

副議長（奥迫胡桃さん） 次に、24番議員、青山中学校の佐藤千聡さんに提言の発表をお願いいたします。

[24番議員 佐藤千聡さん、登壇]

24番議員（佐藤千聡さん） 私は別府の自然を生かした施設・設備づくりについて提言します。

別府ではいたるところで温泉が湧いています。鶴見山頂上から見た別府は、湯けむりが立ち、とてもきれいなすばらしい景色が広がっています。このように多くの観光資源に恵まれている別府ですが、観光客の数は近くの市と比べると、それほど多くないように思います。なぜなのかを家族とともに考えたとき、また来たいと思う人が少ないと言われました。私は、各地獄や温泉に行ったとき、そこに付加施設がないことが原因ではないかと思います。たとえば海地獄や血の池地獄はとても神秘的ですが、そこで景色を見て楽しむだけでは、もう一度行きたいと思わないのではないのでしょうか。体験施設やその場所について学べる博物館等を、観光地や自然について学べる施設をつくれれば、別府をもっと多くの人に知ってもらえると思います。たくさんの雄大な自然を生かした施設や、豊富な温泉をもっと利用してもらえ

るような設備をもっともっと増やしていくことが大切だと思います。

これで私の提言を終わります。

副議長（奥迫胡桃さん） 市長。

市長（浜田 博君） 佐藤千聡議員の提言にお答えいたします。

先ほどから申し上げておりますように、現在、別府市では世界に誇る地域資源である温泉を中心とした「ONSENツーリズム」というまちづくりを進めております。これは全国でも初めてですから、別府ならではの地域資源である温泉、文化、建物、人、自然、こういうものを見つめ直して、生かしていこうということが基本でございます。先ほどお話がありました湯けむりも、富士山に次いで「21世紀に残したい日本の風景」で第2位になりました。この湯けむりがあるということは、そこに泉源が保護されている。泉源というものも何十年とって雨水が地下にしっかり浸透して、そして温泉という特有の成分で泉源が保護されている。泉源があるからそこに煙が立つということでございまして、日本一のこの風景、湯けむり、これをしっかり永遠に残したいという思いでございます。

そういう意味で別府の自然や温泉について、体験をしたり学んだりする施設をつくってはどうかと。全く考えは同じでございまして、そういう意味では提言は本当にありがたいんですが、今後ツーリズムを推進する上において、こういった形でそれが実現できるか考えていきたいと思っております。とにかく大きな施設をつくるというのは、大変なお金を必要とすることでもあって、すぐにといいわけにはいきませんが、今後関係者の方とよく話し合いながらぜひ考えていきたいと思っております。提言、ありがとうございました。

副議長（奥迫胡桃さん） 次に、5番議員、西小学校の田内志於梨さんに提言の発表をお願いいたします。

[5番議員 田内志於梨さん、登壇]

5番議員（田内志於梨さん） 私は美しい別府にするために提言します。

私は、前期環境委員になり、毎朝ごみ拾いをしました。私の学校では、お菓子を食べてもごみを持って帰らないで、そのまま捨てて帰ったりする人がいるので、去年から学校ではお菓子を食べたりジュースを飲んだりするのは禁止という決まりができました。ごみの中にはたばこの吸殻やコーヒーの空き缶などもたくさん落ちて

いました。大人が捨てたのではないかと思われませんが、注意ができません。そして毎朝ごみ拾いをしていたのに、ごみは少ししか減りませんでした。私がこんなに頑張っているのに、裏切られたのかなという気持ちになることもありました。でも、ごみ拾いを一緒に手伝ってくれる人もいて、私と同じで学校をきれいにしたいと思っているのかなと、とてもうれしくなりました。

別府市も同じです。公園の木の間や道の横の溝にたくさんごみが落ちています。取れないように隠してあるみたいに見えます。ごみを拾っている人もたくさんいます。別府市は私の学校のようにごみを捨ててはいけないという決まりはないけれども、ごみを平気で捨てる人はどういう気持ちなのかなと思います。今の別府市は道や公園、海にまでごみがたくさん落ちていて、汚いまちになっています。とても残念です。だから私はごみを見つけたら拾って持って帰ることを心がけたいです。そして私だけで私の学校のみんなにも呼びかけたいです。そして子どもだけでなく大人もごみを捨てない、見つけたら拾うことを一人一人が気をつけてほしいと思います。そうしたらごみのない美しい別府市になると思います。別府市にも取り組みをお願いしたいと思っています。

これで私の提言を終わります。

副議長（奥迫胡桃さん） 市長。

市長（浜田 博君） 田内志於梨議員の提言にお答えいたします。

毎朝、学校周辺の清掃活動をしていただき本当にありがとうございます。みだりにごみを捨てることは法律に違反をする行為であって、一部の心ない人のマナーの悪さが別府のまちを汚しているということは、大変残念に思っています。別府市民でないかもしれませんが、よそから持ってきてごみを捨てて帰るといった人もいます。しかし、別府市は市民憲章というものがあります。一番に「美しい町をつくりましょう」です。これは自分の家の前が県道であっても国道であっても、自分の近くの公園、自分たちが遊べる公園は自分たちの手で掃除をする、きれいにする、この心がけを市民みんなが持っていただくと、別府のまちもきれいになるのかなと思っています。

別府市では、市民の皆さんと一緒にまちの美化活動ということに積極的に取り組んでおります。6月には全市一斉清掃活動をしております。本当にたくさんの方

が出ていただいて、朝、全市一斉に清掃活動をやっていただいています。また、7月には海岸、海浜の清掃活動、これも何千人という市民の皆さん、いろんな団体の方が参加をいただいて、きれいにしていただいております。また自治会、それから市民団体の皆さんもボランティアで清掃活動にたくさん取り組んでいただいております。まちの美化にご協力をいただいているわけでございます。

田内議員のご提言にもあるように、このような清掃活動の輪が市民全体に広がる、このことが大切だと思います。その考えは大変すばらしいなと思っております。貴重な提言、ありがとうございました。

副議長（奥迫胡桃さん） 次に、28番議員、朝日中学校の都築慶子さんに提言の発表をお願いいたします。

[28番議員 都築慶子さん、登壇]

28番議員（都築慶子さん） 私は別府観光のPRについて提言します。

私は観光地である別府を誇らしく思っています。ですから、別府市に住んでいる私たちはもっと別府が観光地としてすばらしいということを外に向けてアピールすべきです。テレビや雑誌などでは、別府を取り上げた番組や記事をよく見かけます。その中に別府市独自が県外、全国、そして世界にPRしているものがあるでしょうか。

別府には、年齢を問わず気に入ってもらえる温泉があります。全国に胸を張ってお勧めできる地獄もあります。休日になると多くの観光客が訪れます。場所だけではなく、数多くの催し物やお祭り、伝統の竹工芸もあります。また温泉のように温かい人たちもたくさんいます。私の通う朝日中学校の校区には鉄輪というところがあります。この鉄輪は近年、とてもきれいになっています。私はこんな美しい町並みをもっとたくさんの人たちに見てもらいたい、知ってもらいたいと思っています。そのためにはやはり、今以上のPRが必要だと思います。

テレビや紙面も有力ですが、私は温泉博物館という施設を考えました。別府の温泉のことや観光地としての歴史などについて学んだり、楽しんだりできる場所です。大人だけでなく、私たち小中学生も楽しめるのであれば、今いる観光客だけでなく、家族連れの観光客も増えることでしょう。ぜひ魅力ある別府を全国に、世界に広めるために、別府観光のPRの仕方について考えていただきたいと思っています。

これで私の提言を終わります。

副議長（奥迫胡桃さん） 市長。

市長（浜田 博君） 都築慶子議員のご提言にお答えをいたします。

都築議員の温泉博物館をつくったらどうかというご提言ですが、まさに日本一の別府ならではの施設だと思っています。またPRの効果も高いと思います。このような施設ができれば、体験に加えて学習の場として子どもを持つ家族、または修学旅行のお客様も増えるのではないかという思いがいたします。

それから先ほど、鉄輪のお話もいただきました。朝日中学校、私の母校でございますが、皆さんが温泉ということに非常に興味を持っていただいて、まち歩きもしていただいているようですが、本当にありがとうございます。鉄輪は「まちづくり交付金」という国のお金が九州で一番に入りました。そして今、途中でございますが、いろんな湯治場風景を再現しようということで、いでゆ坂とみゆき坂が石畳みになりました。蒸し湯も建て替えられました。足蒸しも先ほど言ったように非常に大変な人気です。今、小さい路地裏まで浴衣を着て歩きたくなるような石畳みに全部変わりつつあります。それからことしは公園とかポケットパークとかいうものも整備をする予定です。また追加事業として駐車場とか温泉交流センターとかいうものもつくる計画を今しているところでございます。

湯治場というとお年寄りが多かったんですが、若者がたくさん増えてきました。いわゆる先ほど宣伝しました地獄蒸し料理。自分で野菜やお米を持ってきて、そこで料理をして食べることができる、そういうことも鉄輪の一つの特徴だと思います。そういったものを生かしながら市民や観光客の皆さんが憩いの場として集まれるようなそういうまちづくりを行っていきたいなと思っております。

今、全国から注目のモデル都市として国土交通省からも指定をしていただいて、多くのお客さんが鉄輪を訪れるようになりました。そういう意味でこのことを参考にしながら、あとは駅前、駅西口にも「まちづくり交付金」が入りました。これから海門寺温泉の建替えにも「まちづくり交付金」が入る予定でございます。そういう意味で別府全体にその交付金が普及をして、まちが元気になったなと、あそこにも行ってみたいなと、こう思えるような別府のまちづくりが進んでいくのではないかなと、このように期待をしているところでございます。

都築議員のご提言からは、別府のことが大好きで誇りに思うその気持ちが伝わってきました。その気持ちをいつまでも大切に、もっと別府のことを好きになって、多くの方々に伝えていただきたいなと思います。貴重な提言、ありがとうございました。

副議長（奥迫胡桃さん） 以上で、提言の発表を終わります。

次に、日程第6「子ども議員提出議案第1号 子ども宣言について」を議題といたします。

提出者の18番議員、東山中学校の小野恭央君から、提案理由の説明をお願いいたします。

[18番議員 小野恭央君、登壇]

18番議員（小野恭央君） 子ども議員提出議案第1号は、お手元に配付しております宣言書を読み上げて、提案理由の説明にかえさせていただきます。

「私たちが未来を創るまち 別府」

子ども宣言

僕たちは今日、この「子ども市議会」で私たちのまち“別府”について真剣に考えました。今日出された質問や提言は今の別府だけでなく、未来の別府につながるものでした。

恵み豊かな海や山。日本でも有数の豊富な温泉。それらが織りなす景観。そして、伝統工芸竹細工をはじめとする人々の知恵など別府にはたくさんの財産があります。

私たち小中学生も別府市民の一人として、このまちを大切に思い、このまちから学び、これからの別府を創っていかねばなりません。

今日ここに以下のことを約束して実行していくことを誓います。

- 1 これまで以上に別府のことをよく知り、別府のまちから多くを学び、多くの人々が守ってきた別府を私たちも受け継いでいきます。
- 2 地球の中の別府として環境問題を真剣に考え、自分たちのできることから取り組み、一人でも多くの人に自然を大切にすることを伝え、広めていきます。
- 3 国内はもちろん海外から訪れるお客様を温かいおもてなしの心とあいさつでお迎えいたします。

4 何より私たち一人ひとりが、笑顔で学びあえる学校を目指していきます。

以上、私たち一人ひとりが未来に種をまく活動に取り組むことをここに宣言いたします。

平成19年12月26日

べっぴ子ども市議会

どうぞ、議員の皆様の賛成をよろしくお願いします。

副議長（奥迫胡桃さん） ただいま提案されました「子ども議員提出議案第1号子ども宣言について」に、賛成の皆さんの起立をお願いいたします。

[賛成者起立]

副議長（奥迫胡桃さん） 起立全員です。

よって、「子ども議員提出議案第1号 子ども宣言について」は、全員一致をもって可決されました。

以上で、議事のすべてを終了いたしました。

これをもって、第5回「べっぴ子ども市議会」を閉会いたします。

お疲れさまでした。

午前11時44分 閉会

閉 会 式 次 第

1 . 市 長 あ い さ つ

浜 田 博 別府市長

2 . 記 念 品 贈 呈

郷 司 義 明 教育長

3 . 子 ども 議 員 代 表 者 謝 辞

梶 木 寿 々 美 議員

[閉会式]

市議会事務局（永野修子さん） ただいまから、第5回「べっぷ子ども市議会」の閉会式を行います。

別府市長・浜田博よりごあいさつを申し上げます。

別府市長（浜田 博君） みなさん、きょうは本当にお疲れさまでございました。

小学生と中学生合同のべっぷ子ども市議会、ことして第5回目を迎えることになりました。すっかり定着をして、恒例となったと思っております。

このことは、子ども会の平松会長さんを通じて全国の子ども新聞に発表をされました。まさに小学生と中学生が合同で執行部相手にこういう子ども市議会を開催するのは別府だけらしいです。そういう意味で本当に喜んでおります。

ちょうど5年前、私が市長に就任して「子ども会を支える議員連盟」の皆さんのご指導をいただいて、これを始めてちょうど5回目でございます。そして、ことしも皆さんのまさに観察力のするどい中で質問をいただきました。すばらしい提言もいただきました。そして、「私たちが未来を創るまち 別府」という子ども宣言をいただきまして、大変感動いたしております。

一般質問の中では、福祉や自然、環境、観光、商店街の活性化、国際化、教育と、あらゆるすべての行政分野に及んだ質問もいただきました。また別府のことや高齢者、障がい者のみなさんのことをしっかり思う心温まる質問や貴重な提言もいただいたと思っております。

私たちも皆さんの真剣な姿に一生懸命お答えしましたが、中には困ったなと、計画的に取り組んでいかななくてはならない問題、慎重に考えていかななくてはならない問題もあります。また、民間の団体や市民の皆さんの協力なしではできないことばかりでございます。そして今回、皆さんからいただいた提言は、どれもまたすばらしいものばかりでございました。皆さんが住む別府をよくしたい、安全に過ごせるまちにしたい、そして学校への思いなど、私たちみんなで話し合い、少しでも実現できるようにがんばっていかねばならないと、このように考えているところでございます。

実は、皆さんはあと10年したら被選挙権が与えられます。25歳になったら市

議会議員に立候補できるんです。この中からぜひ別府市議会議員に立候補して頑張っていこう、別府のために頑張ろうという人が出てくることを期待をいたしております。そして、そのときには市長や教育長はもうかわっていると思いますから、あのときに浜田市長に、郷司教育長に、このことを約束したのに、10年たってもできていない、何だと、このことを厳しく指摘してください。きょうの貴重な体験です。皆さんが議会の議員として、まずデビューをしたわけですから、その10年後に別府市議会議員になるぞという方がこの中から出てくることを期待をいたしております。

さて、ことしもあとわずかで暮れようとしております。この1年を振り返りますと、つらかったこと、また楽しかったことなどいろいろなことがあったと思います。その経験と、きょうこの子ども市議会に出席することができた貴重な体験を、これからの勉強に生かしていただいて、一回りも二回りも大きくなってほしいと思います。皆さんの成長を心から期待をいたしております。

終わりにになりましたが、第5回べっぷ子ども市議会の開催にご尽力をいただきました別府市子ども会育成会連合会、別府市PTA連合会の皆様、保護者の方々と先生方、そして別府市議会子ども会を支える議員連盟の皆様方に心から感謝を申し上げます。

本当にありがとうございました。

市議会事務局（永野修子さん） 続きまして、別府市教育長・郷司義明より、本日頑張っていたいただきました子ども議員の皆さん方に、記念品を贈呈いたします。

代表 山の手中学校2年 柁木寿々美さん。

[20番議員 柁木寿々美さん、議場中央フロアに立つ]

教育長（郷司義明君） それでは、大変よく頑張りましたので、記念品を差し上げます。自分の考えていることを皆さんに伝えていくということは、大変大事なことです。これからもしっかり頑張ってください。きょうはありがとうございました。

[教育長より記念品贈呈]（拍手）

市議会事務局（永野修子さん） ここで、子ども議員を代表して、柁木寿々美さんからお礼の言葉があります。

子ども議員、執行部並びに来賓の皆様は、全員ご起立願います。

[全 員 起 立]

子ども議員代表（柁木寿々美さん） きょうは私たちの質問や提言にわかりやすくそして丁寧に答えていただき、ありがとうございました。

きょうの質問や提言は、私たちの強い思いであり、願いでもあります。今すぐには無理かもしれませんが、これから私たちの願いの実現に向けて、市長さんを初め議員さんや市役所の皆さん、よろしくお祈いします。

私たちもこれから住みやすい別府にしていくために、今しなければならぬことを、きょうの議会を参考にして一生懸命頑張っていこうと思います。

この議会に参加できた私たちは、とても貴重な体験をさせていただきました。本当にありがとうございました。（拍手）

市議会事務局（永野修子さん） それでは、皆様ご着席ください。

[全 員 着 席]

市議会事務局（永野修子さん） 以上をもちまして、第5回「べっぴ子ども市議会」の閉会式を終了いたします。

この会議録の内容が間違いないことを確認し
署名します。

平成19年12月26日

子ども議長 西岡 祐里

子ども副議長 奥迫 胡桃

会議録署名議員 中島 康貴

塩崎 芳野

佐藤 千聡

「 私たちが未来を創るまち 別府 」

子ども宣言

僕たちは今日、この「子ども市議会」で私たちのまち“別府”について真剣に考えました。今日出された質問や提言は今の別府だけでなく、未来の別府につながるものでした。

恵み豊かな海や山。日本でも有数の豊富な温泉。それらが織りなす景観。そして、伝統工芸竹細工をはじめとする人々の知恵など別府にはたくさんの財産があります。

私たち小中学生も別府市民の一人として、このまちを大切に思い、このまちから学び、これからの別府を創っていかねばなりません。

今日ここに以下のことを約束して実行していくことを誓います。

- 1 これまで以上に別府のことをよく知り、別府のまちから多くを学び、多くの人々が守ってきた別府を私たちも受け継いでいきます。
- 2 地球の中の別府として環境問題を真剣に考え、自分たちのできることから取り組み、一人でも多くの人に自然を大切にすることを伝え、広めていきます。
- 3 国内はもちろん海外から訪れるお客様を温かいおもてなしの心とあいさつでお迎えいたします。
- 4 何より私たち一人ひとりが、笑顔で学びあえる学校を目指していきます。

以上、私たち一人ひとりが未来に種をまく活動に取り組むことをここに宣言いたします。

平成19年12月26日

べっぴ子ども市議会



別府市議会子ども会を
支える議員連盟 会長

首藤 正

子ども議員の皆さんの別府を思い、発想に富んだ純真な質問や提言に、昨年にも増して非常に感心いたしました。

これからも、皆さんが、今回の子ども市議会での経験を大切にして、夢のある“ふるさとづくり”に関わっていただければ、きっと素晴らしい別府になることと思います。

私ども別府市議会子ども会を支える議員連盟も、別府の子どもたちの健全な成長を見守り続け、暮らしやすく、夢のあるまちづくりに一層励んでいきます。

ご家族、地域の皆さん、先生方、PTAの皆さん、そして市子連の皆さんには、別府の子どもたちへの、なお一層の温かいご指導とご支援をお願いいたします。



別府市教育長

郷司 義明

第5回「べっぷ子ども市議会」における子どもたちの質問・提言及び子ども宣言、謝辞は、その子どもらしいものの見方や感じ方で、身近なことから別府市全体のことまで幅広くかつ、鋭い視点で見つめたものでした。

今回は、自分の経験や調査をもとに実感に基づいた質問や提言が多く、経験に裏付けられた非常に説得力のある内容になっていました。

また、発言に際しての態度や話し方から、よく練習してきた跡がうかがえました。これは、本人の努力と先生方の指導の賜であり、別府の将来を担う子どもをたのもしく感じ、ご指導いただいた先生方に深く感謝いたします。

教育委員会としましても、子どもたちの学校やふるさと別府を大切に思う気持ちが生かされるよう、今後も努力していきたいと思っております。



別府市子ども会
育成会連合会 会長

平松 徹夫

第5回「べっぷ子ども市議会」は子ども議員の皆さんから、貴重な質問や提言をいただき、無事に終えることができました。

皆さんがふるさと別府を思い、別府の観光や温泉について質問されたことや、学校の環境や、商業の活性化についてまで、素晴らしい提言をされたことは、これからの別府のまちづくりにきっと活かされることと思います。

また、皆さんにとりましても、短い期間のなかで質問や提言を考え、議場で堂々と発言されたことが、この冬休み一番の貴重な体験になったのではないのでしょうか。是非この体験を家庭や学校、地域活動の中で活かしてください。

最後に、「こども宣言」にもありましたように、「一人ひとりが未来に種をまく活動」が、さらに大きな和となり広がりますよう、期待し、挨拶いたします。



別府市PTA連合会
会長

後藤 智

今年度も市内各中学校、小学校の代表の子どもたちからみたくいろいろな一般質問、提言を聞くことが出来ました。毎年毎年、私たちとは違った視点からの質問・提言を聞くと驚愕するものもあり、またいろいろな意味で私たちも勉強をさせられたと思います。私たちも子どもに負けないようにまた子どもたちのために別府の未来を考え行動すべきだということを再認識させられました。

これからの未来を担う子どもたちにこのような貴重な経験を与えてくださった方々に感謝するとともに、このべっぷ子ども市議会の開催にあたりご尽力された方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。